

6 博物館ネットワーク

北海道内の中核的な博物館として、道内の博物館や資料館などとの連携をととして、北海道の自然・歴史・文化の活用を実践し、道内博物館全体の水準の向上や活力の強化するためのネットワークづくりを構築していくことで、地域の活性化に貢献することを目的とした事業や活動を展開しています。

博物館ネットワーク(北海道博物館協会など外部組織との連携)

北海道の中核的な博物館としての役割を果たすための取組の1つとして、博物館同士のネットワークをより強固なものとするため、北海道博物館協会、日本博物館協会等、各種博物館団体と連携した活動を行っています。

北海道博物館協会

昭和36(1961)年に発足した道内博物館のネットワークであり、110を超える館園が加盟しています。博物館大会、ミュージアム・マネージメント研修会の開催、各種刊行物の発行などの事業を展開し、道内の博物館活動の振興発展に寄与することを目的としています。当館では、前身の開拓記念館が1981(昭和56)年度から事務局の運営を担うとともに、協会の活動に関わっています。

平成28(2016)年度は、第55回北海道博物館大会が7月7日、8日に新ひだか町において開催され、ミュージアム・マネージメント研修会は、6月17～19日に北海道大学において開催された日本ミュージアム・マネージメント学会への参加をもって替えました。

平成29(2017)年度は、第56回北海道博物館大会が7月6日、7日に帯広市において開催され、ミュージアム・マネージメント研修会は10月19日、20日に羅臼町において開催されました。

平成28年度 北海道博物館協会関係

北海道博物館協会 会長	石森 秀三
北海道博物館協会 事務局長	水島 未記
北海道博物館協会 事務局次長	青柳 かつら
北海道博物館協会 事務局員	小川 正人
北海道博物館協会 事務局員	山田 伸一
北海道博物館協会 事務局員	三浦 泰之
北海道博物館協会道央地区博物館連絡協議会 理事	舟山 直治

平成29年度 北海道博物館協会関係

北海道博物館協会 会長	石森 秀三
北海道博物館協会 事務局長	舟山 直治
北海道博物館協会 事務局次長	栗原 憲一
北海道博物館協会 事務局員	大谷 洋一
北海道博物館協会 事務局員	遠藤 志保
北海道博物館協会 事務局員	圓谷 昂史
北海道博物館協会 事務局員	尾曲 香織
北海道博物館協会道央地区博物館連絡協議会 理事	舟山 直治

第55回北海道博物館大会(概要)

主 催	北海道博物館協会、日本博物館協会北海道支部	共 催	新ひだか町、新ひだか町教育委員会
後 援	日胆地区博物館等連絡協議会、北海道教育委員会、公益財団法人日本博物館協会		
大会内容	7月7日 北海道博物館協会総会、表彰式、特別報告、ポスター解説、研究大会 (会場:新ひだか町公民館) ※研究大会テーマ「フィールドを活用した博物館活動」 8日 エクスカーション(新ひだか町博物館、新ひだか町アイヌ民俗資料館、シベチャリチャシ跡、蓬萊山)、閉会式		

第56回北海道博物館大会(概要)

主 催	北海道博物館協会、日本博物館協会北海道支部、帯広市教育委員会		
後 援	北海道教育委員会、公益財団法人日本博物館協会、道東3管内博物館施設等連絡協議会、十勝管内博物館学芸職員等協議会		
大会内容	7月6日 北海道博物館協会総会、ポスター解説、表彰式、特別報告、研究大会 (会場:帯広百年記念館) ※研究大会テーマ「博物館と情報～地域の宝を“掘り起こす・伝える・のこす”～」 7日 エクスカーション(帯広百年記念館、帯広市児童会館、北海道立帯広美術館、おびひろ動物園)、閉会式		

日本博物館協会

当館は博物館の全国組織である公益財団法人日本博物館協会とも連携し、また、同協会北海道支部の支部長館ともなっており、全国規模の組織と道内の博物館をつなぐ役割を果たしています。

平成28・29年度の日本博物館協会関係への職員の委嘱

公益財団法人日本博物館協会 参与	石森 秀三
公益財団法人日本博物館協会 北海道支部長	石森 秀三

全国歴史民俗系博物館協議会

当館は歴史・民俗系博物館の全国ネットワーク組織である全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、北海道地域の幹事館として、全国と道内博物館をつなぐ中継館としての役割を担っています。

その他

「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」への参画

この事業は、兵庫県立人と自然の博物館を事務局館とした自然史レガシー継承・発信実行委員会が、文部科学省の公募型委託事業である「博物館ネットワークによる未来へのネットワーク継承・発信事業」を受託したものです。全国の自然史系博物館をネットワーク化し、自然史資料の収蔵から活用までの意義について広く発信することを目的としています。

主な事業内容は、①収蔵庫の再構築をテーマとした事例や技術の集積と事例集の作成、②自然史資料の価値を幅広い層に発信するための実験的な展示の実践、③小規模館が地域資源を元にして作り上げた優れたコンテンツによる巡回展の開催といった、3つのパートからなっています。

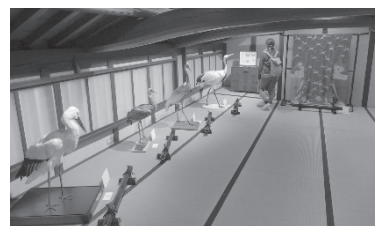
当館は、平成28（2016）年度から参加館として参画し、同年度に京都町屋「花洛庵」で開催した企画展「日本文化を育んだ自然 Where culture meets nature」に、タンチョウの資料貸出などの展示協力をしました。

自然史レガシー継承・発信実行委員会

実行委員会	①事業実施組織	
	博物館名	
	北海道博物館	
	栃木県立博物館	
	三重県総合博物館	
	大阪市立自然史博物館	
	橿原市昆虫館（平成28年度のみ）	
	伊丹市昆虫館（平成29年度のみ）	
	北九州市立自然史・歴史博物館	
	国立科学博物館	
	②事業推進担当館	
	博物館名	
	兵庫県立人と自然の博物館	

平成28年度の主な取組

名 称	企画展「日本文化を育んだ自然 Where culture meets nature」
期 間	2016年11月19日～12月4日
場 所	花洛庵(京都市中京区)
関連講座	・「日本庭園の伝統と海外での多様な展開」 中瀬勲(兵庫県立人と自然の博物館) ・「京町家 坪庭に生きるコケたち・あかりとコケ」 秋山弘之(兵庫県立人と自然の博物館) ・「戦国武者を飾った陣羽織の羽根の謎:ミクロの科学で知る生物の知恵」 齋藤彰(大阪大学大学院工学研究科)



京都町屋「花洛庵」で開催した企画展の様子

平成29年度の主な取組

名 称	企画展「日本酒の自然誌 Where culture meets nature ～日本文化を育んだ自然～」
期 間	2018年1月13日～28日
場 所	みやのまえ文化の郷(兵庫県伊丹市)
関連講座	・シンポジウム「まちかど博物館のつくりかた」 ほか

北のミュージアム活性化実行委員会

野幌森林公園内の各施設（北海道博物館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館）では、互いの堅固なネットワークづくりを基盤に北海道の中核的な文化拠点としての役割を果たすため、「北のミュージアム活性化実行委員会」を組織し、事務局を北海道博物館内に置いています。北海道博物館協会等の協力も得ながら、道内博物館等施設全体の水準の向上や活力の強化、および地域の振興に寄与することを目的とした活動を行っています。

平成 28 年度取組

文化庁の「平成 28 年度地域の博物館と共働した地域の魅力発信事業」の助成を受け、地域活性化へとつなげるシステムを構築するための取り組みを進めました。

この事業では、北海道の自然・歴史・文化の魅力を発信し、地域博物館等の利用促進を図るための「北海道の博物館マップ」と、道内地域のジオパークの概要や特徴、各地の拠点施設等の情報を網羅した「北海道ジオパークマップ」を作成し、各種事業や関連施設等で広く配布しました。また、歴史をふまえた地域の具体的な魅力発信のためのモデルケースづくりとして、「北海道のジオパークまつり」と「北海道の歴史・文化講座」を開催するなど、道内の 5 つのジオパークや各地区の博物館等と連携して情報発信に取り組み、地域への観光客等の誘導に結びつけるための、応用可能なモデルケースについて検証しました。

北海道ジオパークまつり

日 時	7 月 16 日	参加者数	1,476 名
場 所	北海道博物館 講堂		
共 催	北海道博物館、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会、白滝ジオパーク推進協議会、三笠ジオパーク推進協議会、とかち鹿追ジオパーク推進協議会、十勝岳山麓ジオパーク推進協議会		
ワークショップ内容			
・洞爺湖有珠山ジオパーク : 石コロかるたゲーム、軽石のひみつ ・アポイ岳ジオパーク : かんらん岩ストラップ作り ・白滝ジオパーク : 黒曜石アクセサリー作り、レザークラフト体験 ・三笠ジオパーク : 缶バッジ作り、アンモナイトペーパークラフト作り ・とかち鹿追ジオパーク : 火山灰標本作り ・十勝岳山麓ジオパーク構想 : 缶バッジ作り、ペーパークラフト製作、砂絵体験、ダイス製作			



北海道の自然・歴史・文化講座

開催日	内容	講師	場所	参加人数
2016 年 10 月 1 日	アイヌについて学ぶ	遠藤志保	ジオ-Iku(三笠市)	20 名
2016 年 10 月 20 日	えんがるのアイヌ語地名と洪水伝説	遠藤志保	国産材需要開発センター 木楽館(遠軽町)	30 名
栗原憲一				
2017 年 1 月 6 日	松浦武四郎とアイヌ民族が見たジオパーク	三浦泰之	北海道地図株式会社(旭川市)	70 名
遠藤志保				
2017 年 1 月 27 日	幕末の探検家 松浦武四郎と様似	三浦泰之	町立様似図書館(様似町)	47 名
2017 年 1 月 28 日	400 年前の津波と噴火湾沿岸に暮らした人々	添田雄二	有珠アルトリ海岸ネイチャーハウス(伊達市)	25 名
2017 年 2 月 2 日	アイヌの暮らしとアイヌ語地名	遠藤志保	鹿追町立瓜幕中学校(鹿追町)	30 名

平成 29 年度取組

平成 29 年度「文化芸術振興費補助金」(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)の交付を受け、北海道内の博物館園の支援組織が抱える問題点や課題を集約し共有すること、そして、北海道の実情に即した市民参加型の博物館支援活動のあるべき姿を模索するための機会を創出することを目的する取り組みを進めました。

この事業では、北海道博物館協会の協力も得て、道内博物館における地域住民による支援組織に関するアンケート調査を実施しました。このほか、「博物館事業に参画する、博物館事業を主催する支援組織」を全体テーマとし、博物館関係者によるフォーラムと、道内 6 地域の博物館と北海道開拓の村、北海道博物館が体験ブースを出展した一般

北のミュージアム活性化実行委員会(平成28年度)

役 員		
役 職	氏 名	所 属
会長	石森 秀三	北海道博物館 館長
副会長	右代 啓視	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
副会長	西 吉樹	一般財団法人北海道歴史文化財団 総務本部長
委員	堀 繁久	北海道博物館 学芸部博物館基盤グループ学芸主幹
委員	池田 貴夫	北海道博物館 学芸部道民サービスグループ学芸主幹
委員	水島 未記	北海道博物館 学芸部社会貢献グループ学芸主幹
委員	松井 則彰	一般財団法人北海道歴史文化財団 事業副本部長
委員	細川 健裕	一般財団法人北海道歴史文化財団 担当課長
事 務 局		
役 職	氏 名	所 属
事務局長	三浦 泰之	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主査
事務局員	会田 理人	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主査
事務局員	田村 雅史	北海道博物館 総務部企画グループ研究職員
事務局員	小林 孝二	北海道博物館 総務部企画グループ学芸員
事務局員	今 聡人	北海道博物館 総務部総括グループ主査

北のミュージアム活性化実行委員会(平成29年度)

役 員		
役 職	氏 名	所 属
会長	石森 秀三	北海道博物館 館長
副会長	右代 啓視	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
副会長	西 吉樹	一般財団法人北海道歴史文化財団 法人本部長
委員	堀 繁久	北海道博物館 学芸部博物館基盤グループ学芸主幹
委員	水島 未記	北海道博物館 学芸部社会貢献グループ学芸主幹
委員	池田 貴夫	北海道博物館 学芸部道民サービスグループ学芸主幹
委員	松井 則彰	一般財団法人北海道歴史文化財団 営業本部長
委員	細川 健裕	一般財団法人北海道歴史文化財団 事業本部主幹
事 務 局		
役 職	氏 名	所 属
事務局長	三浦 泰之	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
事務局次長	栗原 憲一	北海道博物館 学芸部社会貢献グループ学芸員
事務局員	会田 理人	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主査
事務局員	遠藤 志保	北海道博物館 総務部企画グループ研究職員
事務局員	徳本 彩	北海道博物館 総務部総括グループ主任

向け体験型イベント「北の みゆぜふえす」からなる、「博物館と市民をつなぐ博物館パートナー組織まつり」（10月27～28日）を開催しました。このイベントをとおして、各地域の博物館等職員・関係者と一般市民がふれあう機会を創出するとともに、道内博物館園および博物館支援組織のPR、活動報告、各地域の博物館情報を発信しました。

博物館支援組織まつり

日 時	10月27～28日	参加者数	1日目：36人、2日目：409人
場 所	北海道博物館 講堂		
共 催	北海道博物館、北海道開拓の村	協 力	北海道博物館協会
1日目 「博物館における地域住民参加型組織フォーラム」 プログラム 基調講演 「博物館事業に参画する、博物館事業を主催する支援組織 ―博物館と支援組織の「ネットワーク」「共創」― 和光大学 准教授 平井宏典氏 事例報告 （1）函館美術館ボランティア(いちいの会)&北海道立函館美術館 いちいの会会長 石坂雅子氏 函館美術館副館長 芳村桐子氏 （2）NPO 法人 樽前 arty+ NPO 法人 樽前 arty+ 代表 藤沢レオ氏 （3）NPO 法人オホーツク文化協会 NPO 法人オホーツク文化協会会長 進基氏 ディスカッション『これからの博物館を支える存在』 司会 北海道開拓の村 細川健裕氏 話題提供（報告）「博物館支援組織アンケート調査結果報告」 北のミュージアム活性化実行委員会事務局			
2日目 一般向け体験型イベント「北の みゆぜふえす」 ワークショップ内容 ・体験！小樽の蟹気楼「高島おぼけ」（小樽市総合博物館） ・固まる粘土で土偶づくり（八雲町郷土資料館／函館市縄文文化交流センター） ・パードコールづくり（オホーツクミュージアムえさし／士別市立博物館） ・宝石さがし体験（様似町教育委員会） ・十勝名物 化石発掘ミニ体験（足寄動物化石博物館／帯広百年記念館） ・オホーツクの貝 ストラップづくり（網走市立郷土博物館／網走市立郷土博物館友の会） ・蚕のまゆから糸をとろう！（北海道開拓の村ボランティアの会） ・ヒグマになってみよう／アイヌ語ブロックで遊ぼう（北海道博物館）			



周辺施設とのネットワーク

かるちやる net

平成22（2010）年2月、野幌森林公園周辺の札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として「かるちやる net」（文化施設連絡協議会）が発足しました。参加施設は10施設で当館が事務局を担当し、各施設の広報・PR活動や体験イベントなどを共同で開催しています。事業の実施に際しては、各施設における活動に加え、平成21（2009）年12月に北海道とイオン北海道株式会社の間で締結された包括連携協定（道の教育・文化施設の広報活動への協力・協働事業の実施）を活用し、より広い層へのPRを行っています。

<参加施設>

- | | | | |
|------------|------------|------------------|------------------|
| ・札幌市青少年科学館 | ・サンピアザ水族館 | ・江別市セラミックアートセンター | ・江別市郷土資料館 |
| ・北海道立図書館 | ・北海道立教育研究所 | ・北海道立埋蔵文化財センター | ・野幌森林公園自然ふれあい交流館 |
| ・北海道開拓の村 | ・北海道博物館 | | |

平成 28 年度・29 年度の実施内容

(1) 「てくてく、ぺったん！かるちやるスタンプラリー」

日 時	①2016 年 7 月 16 日～8 月 21 日	参加者数	①7,235 名(シート配布数)
	②2017 年 3 月 25 日～4 月 9 日(春休みバージョン)		②1,286 名(シート配布数)
	③2017 年 7 月 15 日～8 月 20 日(夏休みバージョン)		③6,426 名(シート配布数)
場 所	北海道立教育研究所を除く 9 館		
かるちやる net 加盟館で専用のシートを配布し、そこに特製のスタンプを押すスタンプラリーを実施しました。5 館分のスタンプを集めると記念品を贈呈し、9 館すべての館のスタンプを集めると、さらに記念品をもう 1 つ贈呈しました。			

(2) 「発見・体験 文化の秋～遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ」

日 時	2016 年 10 月 16 日	参加者数	715 名
場 所	サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央 2 条 5 丁目）		
かるちやる net 参加施設とその活動内容について、パネルや資料などの展示や体験イベントを通じて紹介しました。当館は「アンモナイトレプリカをつくろう」「岩石マップをつくろう」「昔あそび体験」を出展しました。			



イベントの様子

「発見・体験 文化の夏～遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ」

日 時	2017 年 8 月 11 日	参加者数	872 名
場 所	サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央2条5丁目）		
かるちやる net 参加施設とその活動内容について、パネルや資料などの展示や体験イベントを通じて紹介しました。当館は「アンモナイトレプリカづくり」「毛皮タッチング体験」「昔あそび体験」を出展しました。			



イベントの様子

(3) 「かるちやるガーデン 2016」

日 時	2016 年 11 月 20 日	参加者数	996 名
場 所	Sapporo55 ビル内 (札幌市中央区北 5 条西 5 丁目 7)		
かるちやる net と北海道教育大学の協働による、体験型広報イベントを実施しました。当館からは「岩石マップをつくろう!」「稲わらでつくるプチしめ縄」を出展しました。			



イベントの様子

「かるちやるガーデン 2017」

日 時	2017 年 12 月 17 日	参加者数	568 名
場 所	Sapporo55 ビル内（札幌市中央区北 5 条西 5 丁目 7）		
かるちやる net と北海道教育大学の協働による体験型広報イベントを実施しました。当館は「稲わらでつくるプチしめ縄」を出展しました。			



イベントの様子

(4) 施設PRパネル展

日 時	2016 年 8 月 11 日～14 日
場 所	サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央 2 条 5 丁目）
日 時	2017 年 8 月 12 日～13 日
場 所	サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央 2 条 5 丁目）
日 時	2017 年 9 月 7 日～8 日
場 所	第 59 回北海道図書館大会（札幌学院大学）
日 時	2018 年 1 月 6 日～7 日
場 所	サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央 2 条 5 丁目）

(5) 共通行事予定チラシの作成・発行

かるちやる通信として、各施設の行事予定表をまとめたチラシを数ヶ月に 1 度発行しました。

かるちやる通信	4～5 月号	2016 年 3 月末
かるちやる通信	6～7 月号	2016 年 5 月末
かるちやる通信	8～9 月号	2016 年 7 月末
かるちやる通信	10～11 月号	2016 年 9 月末
かるちやる通信	1～3 月号	2016 年 12 月末
かるちやる通信	4～6 月号	2017 年 4 月末
かるちやる通信	7～9 月号	2017 年 7 月末
かるちやる通信	10～12 月号	2017 年 10 月末
かるちやる通信	1～3 月号	2017 年 1 月末

(6) 商業施設での PR 活動の実施

サンピアザ光の広場とイオン札幌平岡店にチラシラックを設置し、各施設のリーフレットやチラシ等を配布しました。

CISE ネットワーク

CISE ネットワークは、北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワークです。教育プログラム、教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を行っています。当館は平成 27（2015）年 4 月に北海道博物館が総合博物館として開館したことにより、自然史系・科学系の博物館等との連携を深めるため、平成 27（2015）年度に正式メンバーとして加わりました。

・「CISE サイエンス・フェスティバル in 新千歳空港」

日 時	2017 年 1 月 14 日～15 日（展示ブースは 20 日まで）
場 所	新千歳空港ターミナルビル国内線 2 階 センタープラザ
主 催	北海道空港株式会社
当館は「博物館で楽しむ！ 北海道の生き物ワールド」という展示ブースとステージイベント、「北広島マンモスゾウ大復活プロジェクト紹介」（北広島市エコミュージアムセンター知新の駅と共同参加）という展示ブースで参加しました。	



イベントの様子

・「第 5 回 CISE サイエンス・フェスティバル in チ・カ・ホ ～つなげる！ ひと・いきもの・博物館～」

日 時	2017 年 1 月 21 日～22 日
参加者数	9,441 人
場 所	札幌駅前地下歩行空間 北 3 条交差点広場（西）
当館は「海辺に流れついた生き物をしらべてみよう」というブースを設置して、このイベントに参加しました。	



イベントの様子

・「青少年のための科学の祭典 in 北海道 2017 & 青少年のための科学の祭典札幌冬の大会」

日 時	2018 年 2 月 17 日～18 日
参加者数	1 日目：559 名、2 日目：621 名
場 所	札幌ドーム西棟（豊平区羊ヶ丘 1 番地）
主 催	科学の祭典 in 北海道、サイエンス・スパークス
例年開催している「CISE サイエンス・フェスティバル」は、平成 29 年度は開催せず、代わりに別団体主催によるイベントに CISE ネットワークとして共催・出展しました。北海道博物館は、「生き物たちの北海道 動物になりきろう！」を出展しました。	



イベントの様子

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク

札幌市内の環境関連施設のネットワークです。札幌市が、市内にある動物園・水族館などの環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置づけ、各施設間での情報共有や連携を進めることを目的として設立したネットワークです。当館は平成 27（2015）年度から参画しました。

・「いきものつながりクイズラリー」

日 時	2016 年 7 月 16 日～10 月 31 日 2017 年 7 月 15 日～9 月 30 日
生物多様性に関する理解の向上と、「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」の PR を図るために夏休み期間を中心に実施したクイズラリーです。参加賞のプレゼントのほか、全問正解者には「さっぽろいきもの博士認定証」をプレゼントしました。当館も参加し、第 5 テーマ「生き物たちの北海道」付近にクイズを設置しました。	

外部イベントへの参画

サイエンスパーク

子どもたちが科学技術を身近に体験・学習する機会を提供し、豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興を図ることを目的に、北海道と独立行政法人北海道総合研究機構の共催で開催され、民間企業等も参加しているイベントです。当館の前身である北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターは毎年この事業に参画してきました。北海道博物館としても、この取組を引き継ぎ、体験活動を通じた北海道の自然・歴史・文化に関する知識の普及や事業の PR 活動を行っています。

主 催	北海道、独立行政法人北海道総合研究機構
日 時	2016 年 7 月 28 日
参加者数	525 人
場 所	札幌駅前地下歩行空間
当館は、開催中だった第 2 回特別展「ジオパークへ行こう！～恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅～」展に関連して、「岩石マップづくり」のブースを設置して、このイベントに参加しました。	



サイエンスパークの様子

主 催	北海道、独立行政法人北海道総合研究機構
日 時	2017 年 7 月 28 日
参加者数	294 人
場 所	札幌駅前地下歩行空間
当館は、アンモナイトや貝殻のレプリカストラップづくりのブースを設置して、このイベントに参加しました。	

カルチャーナイト

札幌市内の文化施設を夜間開放し、市民が地域の文化を楽しむイベントです。当館では、北海道の自然・歴史・文化に親しんでもらうことを目的に、赤れんが庁舎内「北海道博物館赤れんがサテライト」の夜間開放と解説活動を実施しています。

主 催	NPO 法人カルチャーナイト北海道（カルチャーナイト実行委員会）
日 時	2016 年 7 月 22 日 2017 年 7 月 21 日
参加者数	127 名（2016 年度）、54 名（2017 年度）
場 所	北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）
「北海道博物館赤れんがサテライト」の夜間開放と展示解説を実施しました。	



カルチャーナイトの様子

教員のための博物館の日 in 札幌

「教員のための博物館の日」は、国立科学博物館により始められた事業で、地域の学校の教員などに博物館利用のメリットや可能性を伝える事業です。

主 催	一般財団法人北海道歴史文化財団、道央地区博物館等連絡協議会、独立行政法人国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会
日 時	2016 年 7 月 29 日
参加者数	12 名
場 所	北海道開拓の村ビジターセンター
当館はこのイベントに参加・出展し、総合展示の見どころや学校団体向けの「はっけんプログラム」について紹介しました。	



教員のための博物館の日 in 札幌の様子

主 催	一般財団法人北海道歴史文化財団、道央地区博物館等連絡協議会、独立行政法人国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会
日 時	2017 年 7 月 27 日
参加者数	31 名
場 所	北海道開拓の村ビジターセンター
当館はこのイベントに参加・出展し、総合展示の見どころや学校団体向けのプログラムについて紹介しました。	



教員のための博物館の日 in 札幌の様子

7 地域交流・社会貢献

道民や市民団体等が学びの場、または学びの発表の場として博物館を活用する取組や、さまざまな博物館事業に参画しながら、主体的に活動する事業などを展開しています。

また、北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、研究成果を活かして広く社会に貢献するとともに、北海道の豊かな未来の実現にも貢献していくため、外部団体などの研修協力や各種委員の派遣などを行っています。

道民参加型組織

開拓記念館では、来館者により良く利用していただくために、さまざまなアイディアや意見をお寄せいただくことを目的として、平成 17（2005）年度から「ミュージアム・メイト」制度を導入し（任期 2 年）、平成 26（2014）年度まで実施してきました。

北海道博物館の開設とともに、「ミュージアム・メイト」制度は終了しましたが、道民の博物館活動への参加のあり方の検討には継続して取り組んでおり、平成 28（2016）・29（2017）年度は、これまでの先進地事例調査をもとに、ミュージアム・パートナー（仮称）等の創設に向けた検討を進めました。

道民協働・発信事業の展開

道民が発信者として博物館活動に参画する機会の 1 つとして、当館の展示の一部を道民や各種団体などと協働で作成する取組を進めています。

道民参加型展示コーナー

道民参加型事業の導入に向けて、北海道の自然・歴史・文化を題材として活動している団体や研究会が所蔵する資料を展示するコーナーを、当館の中 2 階にある休憩ラウンジ内に設置しています。

団 体 名	北海道化石会
資 料	アンモナイト化石 28 点（北海道化石会所蔵）
期 間	平成 28 年（2016）1 月 29 日～平成 30（2018）年 3 月 31 日（継続中）

今とこれからを創る

総合展示室 2 階にある第 4 テーマでは、北海道に住む同時代を生きる人々が各地で直面している課題に取り組み、北海道の現在と未来を創りつつある状況を伝えることを目的に、その活動を行っている人に主体的に展示に関わっていただくコーナーを設けています。

平成 28 年度の実施内容

展 示 内 容	執 筆 ・ 協 力 者	
北海道南西沖地震を語りつなぐ ー奥尻島から	奥尻町教育委員会 稲垣森太氏（執筆）	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
25 年を振り返る 未来をたぐり寄せる者を	「とかちエテケカンパの会」会事務局 芦澤満氏（執筆）	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
増えすぎたエゾシカの活用を模索する	高瀬季里子氏（札幌市）（展示協力）	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日

※実施内容は、平成 27 年度と同じ。

平成 29 年度の実施内容

展 示 内 容	執 筆 ・ 協 力 者	
1926 年十勝岳噴火から 90 年	上富良野町郷土をさぐる会(協力)	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
アポイ岳の高山植物を守る	様似町商工観光課アポイ岳保全係 坂下志朗氏(執筆)	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
アイヌ文化の保存と伝承のために	白糠アイヌ文化保存会 磯部志津子氏、白糠町教育委員会社会教育係 竹ヶ原浩司氏(執筆)	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日

他機関等との協力・連携

(1) 市民・他団体との連携

平成 28 年度の市民・他団体との連携(11 件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
出展	第 10 回アースデイ円山動物園	第 10 回アースデイ in 円山動物園実行委員会	5 月 21 日～5 月 22 日	札幌市円山動物園
共同実施	広報事業「イオンチャンネルにおけるデジタルサイネージ配信」「レジ de チャンネルにおけるデジタルサイネージ配信」「大型デジタルサイネージ配信」	イオン北海道	7 月～9 月	イオンモール札幌発寒ほか
協力	蝦夷和紙プロジェクト	蝦夷和紙プロジェクト実行委員会	7 月 23 日	北海道博物館
共催	NHK 環境セミナー「ジオパークの海を学ぼう！」	NHK 室蘭放送局、様似町、様似町教育委員会	7 月 31 日	様似町中央公民館
共催	第 1 回まなぶんサマースクール「ジオパークへ行こう！」～アンモナイトから石炭まで 1 億年時間旅行を体験～	北海道新聞社	8 月 5 日	北海道博物館、三笠市立博物館
共同実施	北海道ジオパークパネル展	イオン北海道	8 月 13 日～8 月 21 日	イオンモール札幌発寒
共同実施	北海道ジオパークまつり in イオンモール札幌発寒	イオン北海道	8 月 20 日	イオンモール札幌発寒
出展	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2016	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2016 実行委員会	10 月 1 日	札幌市青少年科学館
後援・協力	北海道 150 年事業応援企画 北海道の名付け親・松浦武四郎の軌跡	センチュリーロイヤルホテル	11 月 1 日～11 月 30 日	センチュリーロイヤルホテル
共同実施	博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業企画展「日本文化を育んだ自然」	自然史レガシー継承・発信実行委員会	11 月 19 日～12 月 4 日	花洛庵
共催	第 31 回野幌森林公園クマガワラー斉調査	野幌森林公園を守る会	3 月 4 日	野幌森林公園

平成 29 年度の市民・他団体との連携(7 件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
共催	「地質の日」記念展示 「北海道のジオサイト」に見る化石	「地質の日」展示実行委員会、北海道大学総合博物館	4 月 28 日～6 月 18 日	北海道大学総合博物館
共催	特別展 PR パネル展	センチュリーロイヤルホテル	7 月 21 日～8 月 15 日	センチュリーロイヤルホテル
共催	まなぶんサマースクール「学ぶ！作る！ちっちゃな野球盤」	北海道新聞マーケティングセンター	8 月 5 日	北海道博物館

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
参加	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2017	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2017	10月7日	札幌市青少年科学館
協力	蝦夷和紙プロジェクト 2017	北の紙工房 紙びより	10月14日	北海道博物館
共催	博物館と市民をつなぐ 博物館パートナー組織まつり	北のミュージアム活性化実行委員会	10月27日～10月28日	北海道博物館
共催	第32回クマガラエー斉調査	野幌森林公園を守る会	3月11日	北海道博物館、野幌森林公園

(2) 学会及び研究会との交流

平成28年度の学会や研究会との交流(2件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
協力	日本ミュージアム・マネジメント学会第21回大会エクスカーション	日本ミュージアム・マネジメント学会	6月17日	北海道博物館
共催	第16回日本漂着物学会北海道大会	日本漂着物学会	10月22日～10月23日	北海道博物館

平成29年度の学会や研究会との交流(1件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
共催	日本セトロロジー研究会第28回大会	日本セトロロジー研究会	6月24日～6月25日	北海道博物館

(3) 道内市町村等との連携

平成28年度の道内市町村との連携(8件)

種別	市町村名	事業名	主催団体等	開催日	会場
共同実施	札幌市	連携事業「科学館クラブの特別展観覧」対応	札幌市青少年科学館	7月10日	北海道博物館
共催	札幌市	札幌市青少年科学館平成28年度夏の特別展「大発見！北海道恐竜展【ハドロサウルス類の進化の謎に挑戦】」	札幌市青少年科学館	7月23日～8月21日	札幌市青少年科学館
協力	北広島市	平成28年度 エコミュージアム普及推進事業「北広島子ども学芸員」	北広島市エコミュージアム	7月29日、8月6日	北海道博物館
共同実施	札幌市	連携事業「ミートークショー」	札幌市青少年科学館	8月3日、8月12日	札幌市青少年科学館
協力	札幌市	チ・カ・ホで体験！ジオパーク	北海道・札幌市政策研究みらい会議	9月17日	札幌駅前通地下歩行空間
共催	札幌市	当館企画展「きれい？不思議？楽しい！？漂着物 ー北の海辺でお宝みつけ！ー」のサテライト展示	札幌市青少年科学館	10月1日～11月27日	札幌市青少年科学館
協力	平取町	平取町立二風谷アイヌ文化博物館第22回特別展「沙流に受け継がれたアイヌの祭祀具」	平取町立二風谷アイヌ文化博物館	10月15日～12月15日	平取町立二風谷アイヌ文化博物館
協力	平取町	平取町立二風谷アイヌ文化博物館公開セミナー「アイヌ工芸技術の継承に向けたこれから動き」	平取町立二風谷アイヌ文化博物館	10月16日	平取町立二風谷アイヌ文化博物館

平成 29 年度の道内市町村との連携(2 件)

種別	市町村名	事業名	主催団体等	開催日	会場
協力	恵庭市	「新 恵庭市史」の執筆	株式会社ぎょうせい	9 月～	
協力	むかわ町	企画展への館長祝辞の提供	むかわ町穂別博物館	10 月 28 日	

(4) その他の連携

平成 28 年度のその他の連携(4 件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
後援	東京シンポジウム 2016－文化遺産を考える－	堺市、国立文化財機構	5 月 14 日	東京国立博物館
協力	植物の鑑定への協力	北海道警察	7 月 12 日	
共催・ 出展	札幌啓成高校 SSH in 光の広場	北海道札幌啓成高等学校 SSH 推進部	9 月 24 日	サンピアザ光の広 場
協力	北方四島在住の歴史文化専門家受入れ事業	外務省欧州局ロシア課	10 月 9 日～10 月 16 日	北海道博物館ほか

平成 29 年度のその他の連携(1 件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
共催・ 出展	札幌啓成高校 SSH in 光の広場	北海道札幌啓成高等学校 SSH 推進部	10 月 9 日	サンピアザ光の広 場

(5) 外部団体等の研修への協力

平成 28 年度の外部団体への研修協力(6 件)

主催者	内容等	対応者	実施日	場所
北海道銀行	新入社員研修(アイヌ文化等についての講義)	舟山直治	4 月 12 日	北海道銀行ほしみ研修 センター
株式会社イー・シー・プロ	2016 年度通訳案内士等研修会(前期)	池田貴夫	10 月 20 日	北海道博物館
株式会社イー・シー・プロ	2016 年度通訳案内士等研修会(後期)	出利葉浩司	11 月 25 日	北海道博物館
江別市郷土資料館友の会	江別市郷土資料館友の会平成 28 年度研修	栗原憲一	9 月 4 日	北海道博物館
奈良県立民俗博物館	視察研修	小川正人	9 月 15 日	北海道博物館
穂別博物館協議会	穂別博物館協議会視察研修	水島未記	10 月 22 日	北海道博物館

平成 29 年度の外部団体への研修協力(3 件)

主催者	内容等	対応者	実施日	場所
江別市内公立高校 3 校美術 部研修会	大麻・野幌・江別高校	社会貢献グループ	4 月 30 日	北海道博物館(総合展示 室)
北海道教育委員会(北海道教 育庁石狩教育局教育支援課)	平成 29 年度初任段階教員研修	社会貢献グループ	8 月 9 日～11 日	北海道博物館
株式会社イー・シー・プロ	2017 年度通訳案内士等研修会	池田貴夫	10 月 11 日 ～20 日、24 日	北海道博物館(総合展示 室)

当館職員が委嘱を受けた各種委員等

(1) 各種委員等

平成 28 年度の各種委員への就任(41 件)

所属研究グループ	氏 名	委嘱内容等	期間
学芸部長	舟山直治	北海道教育庁 松前神楽調査委員会 調査委員	2014 年 6 月 17 日～2017 年 6 月 16 日
		江差町歴史文化基本構想策定委員会 委員	2015 年 8 月 3 日～2017 年 12 月 31 日
		小樽市文化財審議会 委員	2015 年 11 月 18 日～2017 年 10 月 31 日
		文化庁 文化財部調査員	2016 年 6 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
		小樽市歴史文化基本構想策定委員会 委員	2016 年 8 月 26 日～2019 年 3 月 31 日
自然研究グループ	水島未記	一般財団法人北海道新聞野生生物基金 評議員	2014 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
		フラワーソン 2017 実行委員会 委員	2016 年 11 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
歴史研究グループ	右代啓視	江別市文化財保護委員会 委員	2014 年 8 月 1 日～2016 年 7 月 31 日
		国立民族学博物館第三者検証委員会 委員	2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
		人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター推進評議会 委員	2016 年 6 月 24 日～2019 年 3 月 31 日
		江別市文化財保護委員会 委員	2016 年 8 月 1 日～2018 年 7 月 31 日
		平成 29 年度国立民族学博物館文化資源プロジェクトにかかわる審査意見書作成	2017 年 2 月 10 日～2017 年 3 月 31 日
	三浦泰之	石狩市文化財保護審議会 委員	2014 年 5 月 1 日～2016 年 4 月 30 日
		北海道教育庁 松前神楽調査委員会 調査委員	2014 年 6 月 17 日～2017 年 6 月 16 日
		石狩市文化財保護審議会 委員	2016 年 5 月 1 日～2018 年 4 月 30 日
		寿都町歴史文化基本構想策定委員会 委員	2016 年 5 月 16 日～2018 年 3 月 31 日
	ほか 1 件		
	春木晶子	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 アイヌ関係資料評価委員会委員	2017 年 1 月 27 日～2017 年 3 月 31 日
生活文化研究グループ	池田貴夫	北海道教育庁 松前神楽調査委員会 調査委員	2014 年 6 月 17 日～2017 年 6 月 16 日
	会田理人	別海町史跡旧奥行臼通所整備検討委員会 委員	2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
		平成 28 年度グローバル型政策形成事業に係る政策形成チームメンバー	2016 年 7 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
		上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会 委員	2016 年 9 月 29 日～2018 年 3 月 31 日
博物館研究グループ	堀 繁久	野幌自然環境モニタリング検討会 委員	2015 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
		北海道新幹線環境影響評価事後調査アドバイザー	2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
		北海道希少野生動植物種保護対策検討有識者会議 構成員	2016 年 7 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
		スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会 委員	2016 年 4 月 21 日～2017 年 3 月 31 日
	栗原憲一	北海道地図株式会社におけるジオパーク関連展示アドバイザー	2017 年 2 月 24 日～2018 年 3 月 31 日
	小林孝二	小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観審議会 委員	2014 年 8 月 1 日～2016 年 7 月 31 日
		江別市文化財保護委員会 委員	2014 年 8 月 1 日～2016 年 7 月 31 日
		小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観審議会 委員	2016 年 8 月 1 日～2018 年 7 月 31 日
		江別市文化財保護委員会 委員	2016 年 8 月 1 日～2018 年 7 月 31 日
アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ	小川正人	国立のアイヌ文化博物館(仮称)展示ワーキング会議 委員	2016 年 4 月 18 日～2017 年 3 月 31 日
		平成 28 年度危機的な状況にある言語・方言に関する研究協議会 委員	2016 年 8 月 5 日～2017 年 3 月 31 日
		国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会 委員	2016 年 12 月 15 日～2018 年 3 月 31 日
	ほか 2 件		
	甲地利恵	北海道立北方民族博物館資料収集評価委員会 委員	2015 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
	遠藤志保	平成 28 年度口承文芸視聴覚資料作成事業編集委員会 委員	2016 年 5 月 13 日～2017 年 3 月 31 日

所属研究グループ	氏 名	委嘱内容等	期間
アイヌ民族文化研究センター	大坂 拓	国立のアイヌ文化博物館(仮称)展示ワーキング会議 委員	2016年 4月 18日～2017年 3月 31日
アイヌ文化研究グループ		平成 28 年度口承文芸視聴覚資料作成事業編集委員会 委員	2016年 5月 13日～2017年 3月 31日
	出利薬浩司	計 1 件	

平成 29 年度の各種委員への就任(36 件)

所属研究グループ	氏 名	委嘱内容等	期間
学芸部長	舟山直治	北海道教育庁 松前神楽調査委員会 調査委員	2014年 6月 17日～2017年 6月 16日
		江差町歴史文化基本構想策定委員会 委員	2015年 8月 3日～2017年 12月 31日
		小樽市文化財審議会 委員	2015年 11月 18日～2017年 10月 31日
		小樽市文化財審議会 委員	2017年 11月 1日～2019年 10月 31日
		小樽市歴史文化基本構想策定委員会 委員	2016年 8月 26日～2019年 3月 31日
		文化庁文化財部調査員	2017年 6月 1日～2018年 3月 31日
自然研究グループ	水島未記	一般財団法人北海道新聞野生生物基金 評議員	2014年 4月 1日～2018年 3月 31日
		フラワーソン 2017 実行委員会 委員	2016年 11月 1日～2018年 3月 31日
		あつべつ区民協議会 第 7 期 委員	2017年 6月 1日～2018年 3月 31日
歴史研究グループ	右代啓視	人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター推進評議会 委員	2016年 6月 24日～2019年 3月 31日
		江別市文化財保護委員会 委員	2016年 8月 1日～2018年 7月 31日
		平成 30 年度国立民族学博物館文化資源プロジェクトにかかわる 審査員	2018年 1月 19日～2018年 3月 31日
	三浦泰之	北海道教育庁 松前神楽調査委員会 調査委員	2014年 6月 17日～2017年 6月 16日
		石狩市文化財保護審議会 委員	2016年 5月 1日～2018年 4月 30日
		寿都町歴史文化基本構想策定委員会 委員	2016年 5月 16日～2018年 3月 31日
	東 俊佑	計 1 件	
生活文化研究グループ	池田貴夫	北海道教育庁 松前神楽調査委員会 調査委員	2014年 6月 17日～2017年 6月 16日
	会田理人	別海町史跡旧奥行白駅通所整備検討委員会 委員	2016年 4月 1日～2018年 3月 31日
		平成 29 年度上ノ国町歴史文化構想策定委員	2017年 5月 1日～2018年 3月 31日
博物館研究グループ	堀 繁久	野幌自然環境モニタリング検討会委員	2017年 4月 1日～2019年 3月 31日
		北海道新幹線環境影響評価 事後調査アドバイザー	2017年 4月 6日～2018年 3月 31日
		北海道希少野生動植物種保護対策検討有識者会議構成員	2017年 6月 15日～2018年 3月 31日
		北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員	2017年 7月 5日～2020年 3月 31日
	栗原憲一	北海道地図株式会社におけるジオパーク関連展示アドバイザー	2017年 2月 24日～2018年 3月 31日
		三笠ジオパーク ESD 推進協議会	2017年 6月 8日～2018年 3月 31日
	小林孝二	小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観審議会 委員	2016年 8月 1日～2018年 7月 31日
		江別市文化財保護委員会 委員	2016年 8月 1日～2018年 7月 31日
アイヌ民族文化研究センター	小川正人	国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会委員	2016年 12月 15日～2018年 3月 31日
アイヌ文化研究グループ		「北海道史編さん事業」有識者懇談会構成員	2017年 6月～2018年 3月
		国立アイヌ民族博物館展示ワーキング会議委員	2017年 5月 1日～2017年 9月 15日
		平成 29 年度危機的な状況にある言語・方言に関する研究協議会 委員	2017年 8月 8日～2018年 3月 31日
		ほか 1 件	
	甲地利恵	北海道立北方民族博物館資料収集評価委員	2017年 5月 1日～2018年 3月 31日
		札幌市歴史文化基本構想策定委員会委員	2018年 3月 1日～2018年 3月 31日
	遠藤志保	平成 29 年度口承文芸視聴覚資料作成事業編集委員会 委員	2017年 6月 21日～2018年 3月 31日
	大坂 拓	国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会委員	2016年 12月 15日～2018年 3月 31日

(2) 非常勤講師

平成 28 年度の非常勤講師への就任(16 件)

所属研究グループ	委嘱者	大学名	講義内容	期間
自然研究グループ	添 田 雄 二	北海道教育大学岩見沢校	自然科学入門Ⅰ	2016 年 4 月 7 日～2016 年 9 月 30 日
歴史研究グループ	右 代 啓 視	東海大学	博物館展示論、博物館実習Ⅰ	2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
	三 浦 泰 之	札幌大学	博物館展示論	2016 年 4 月 1 日～2016 年 9 月 30 日
		放送大学	面接授業担当	2016 年 4 月 1 日～2016 年 9 月 30 日
	東 俊 佑	北海学園大学	博物館教育論	2016 年 9 月 20 日～2017 年 3 月 19 日
	春 木 晶 子	北海学園大学	日本芸術史	2016 年 4 月 8 日～2016 年 9 月 30 日
		北海道教育大学札幌校	平成 28 年度前期 留学生向け講座「日本文化の特色」	2016 年 7 月 19 日～2016 年 8 月 1 日
		北海道教育大学札幌校	平成 28 年度後期 留学生向け講座「日本文化の特色」	2017 年 1 月 16 日～2017 年 1 月 30 日
生活文化研究グループ	池 田 貴 夫	北海学園大学	博物館実習Ⅲ(前期)	2016 年 4 月 1 日～2016 年 9 月 30 日
		放送大学	面接授業担当	2016 年 4 月 1 日～2016 年 9 月 30 日
博物館研究グループ	堀 繁 久	放送大学	面接授業担当	2016 年 4 月 1 日～2016 年 9 月 30 日
	栗 原 憲 一	北海学園大学	博物館実習Ⅲ(後期)	2016 年 9 月 20 日～2017 年 3 月 19 日
アイヌ文化研究グループ	小 川 正 人	放送大学	面接授業担当	2016 年 4 月 1 日～2016 年 9 月 30 日
	田 村 雅 史	札幌大学	アイヌ語Ⅱ	2015 年 9 月 17 日～2017 年 3 月 31 日
	出利葉浩司	北海学園大学	博物館展示論	2016 年 4 月 1 日～2016 年 9 月 30 日
		北星学園大学・北星学園大学短期大学部	北海道文化論Ⅰ(A)、(B)、(C)	2016 年 4 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

平成 29 年度の非常勤講師への就任(12 件)

所属研究グループ	委嘱者	大学名	講義内容	期間
自然研究グループ	添 田 雄 二	北海道教育大学岩見沢校	自然科学入門Ⅰ	2017 年 4 月 7 日～2017 年 9 月 30 日
	表 溪 太	北海道大学	ヒグマ学入門「ヒグマと博物館」	2017 年 9 月 27 日～2018 年 2 月 28 日
歴史研究グループ	右 代 啓 視	北海道教育大学	考古学(前期)	2017 年 4 月 1 日～2017 年 9 月 30 日
		東海大学	博物館展示論、博物館実習Ⅰ	2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
	三 浦 泰 之	札幌大学	博物館展示論	2017 年 4 月 7 日～2017 年 9 月 12 日
	東 俊 佑	北海学園大学	博物館教育論	2017 年 9 月 19 日～2018 年 3 月 18 日
	春 木 晶 子	北海道教育大学札幌校	留学生向け講座「日本文化の特色」	2017 年 7 月 10 日、2017 年 7 月 24 日 2017 年 7 月 31 日
		北海学園大学	日本芸術史	2017 年 4 月 1 日～2017 年 9 月 30 日
生活文化研究グループ	池 田 貴 夫	札幌市立大学大学院	寒冷地生活支援看護学特論	2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
		北海学園大学	博物館実習Ⅲ(前期)	2017 年 4 月 1 日～2017 年 9 月 30 日
博物館研究グループ	栗 原 憲 一	北海学園大学	博物館実習Ⅲ(後期)	2017 年 9 月 18 日～2018 年 3 月 18 日
アイヌ文化研究グループ	田 村 雅 史	札幌大学	アイヌ語Ⅱ	2017 年 9 月 22 日～2018 年 3 月 12 日

8 広報

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などを知っていただくため、マスメディアや印刷物、インターネットなどを活用した広報活動を行っています。そうした広報活動には、当館を利用するすべての人が自らの興味や関心によって楽しみながら学べるための支援や、道民や一般企業などによる各種事業への参画や協働を促進し、地域に支えられる博物館づくりの裾を広げていくという側面もあります。

報道機関等への対応

新聞

新聞への掲載実績は、平成 28 年度は 129 件、平成 29 年度は 218 件でした。

特別展の開催にあたって展示内容を紹介する記事が数多く掲載されたほか、イベントに関する情報が地元情報誌の「まんまる新聞」に定期的に掲載されるなどしました。

雑誌

雑誌への掲載実績は、平成 28 年度は 74 件、平成 29 年度は 40 件でした。

平成 28 年度には特別展「ジオパークへ行こう！」が無料情報誌『JP01』夏号に掲載され、平成 29 年度には第 10 回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」の紹介記事が第 66 回 さっぽろ雪まつりの公式ガイドに掲載されるなど、観光関係の雑誌に数多く掲載されました。

テレビ

テレビでの報道実績は平成 28 年度は 64 件、平成 29 年度は 24 件でした。

7 月から 9 月にかけて開催した第 2 回特別展「ジオパークへ行こう！」や第 3 回特別展「プレイボール！」の期間中に、多くの報道や番組放送で取り上げられました。

ラジオ

ラジオでの報道実績は平成 28 年度は 5 件、平成 29 年度は 10 件でした。

特別展および企画テーマ展の内容の紹介として、当館の職員が出演して話をする放送が多くありました。

その他

その他、平成 29 年度には北海道の観光案内本などの単行本への掲載が 5 件、web サイトへの掲載が 81 件ありました。また、平成 28 年度第 2 回特別展「ジオパークへ行こう！」や平成 29 年度第 3 回特別展「プレイボール！」においては、札幌圏のハイヤー（タクシー）やバス内への広告掲示のほか、道内のイオン各店舗におけるレジサイネージでの広告（平成 28 年度）、道内の宝くじ売り場での動画放映（平成 29 年度）など、さまざまな媒体による広報を試みています。

学術的な情報や知見の提供

平成 28 年度の学術的な情報や知見の提供(24 件)

【学芸部長(1 件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
舟山直治	そば今昔	十勝毎日新聞(2016 年 10 月)	十勝毎日新聞社	協力

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
水島未記	自然の自由研究	「まなぶんチャレンジ広場」(北海道新聞による、自由研究応援サイト) http://jiyukenkyu.hokkaido-np.co.jp	北海道新聞社	協力

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
三浦泰之	冒険の旅に出たい！～松浦武四郎 人生をワクワクさせる極意～	先人たちの底力 知恵泉(2016年8月2日)	NHK Eテレ	協力
三浦泰之	みんなが笑顔で暮らせる 住まいる北海道づくり	道政広報テレビ番組「情報カフェ 赤れんが」 (2017年2月25日)	UHB 北海道文化放送	協力

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
大坂拓	《エカシレスブリ(古の風習)4》木綿衣の文様をたどる	ウェブマガジン月刊シロロ 4月号(2016年4月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	《エカシレスブリ(古の風習)5》小樽市祝津のイオマンテ	ウェブマガジン月刊シロロ 5月号(2016年5月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	《エカシレスブリ(古の風習)6》噴火湾アイヌの信仰ーイコリの神	ウェブマガジン月刊シロロ 7月号(2016年7月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	《エカシレスブリ(古の風習)7》刀帯作りあれこれ(1)	ウェブマガジン月刊シロロ 10月号(2016年10月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	《エカシレスブリ(古の風習)8》刀帯作りあれこれ(2)経糸の準備	ウェブマガジン月刊シロロ 12月号(2016年12月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	《エカシレスブリ(古の風習)9》刀帯作りあれこれ(3)緯糸の編みかたー①	ウェブマガジン月刊シロロ 1月号(2017年1月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	《エカシレスブリ(古の風習)10》刀帯作りあれこれ(4)緯糸の編みかたー②	ウェブマガジン月刊シロロ 3月号(2017年3月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓・ 出利葉浩司	狩りと冬の装い	道新こども新聞「まなぶん」(どうしん電子版)解説 動画(2017年1月21日)	北海道新聞社	協力
アイヌ民族 文化研究セ ンター	アイヌ文化発信! コラム アイヌ文化あれこれ Vol.51～62	北海道メールマガジン Do・Ryoku(動・力)	総合政策部広報広聴課	寄稿
	内 訳	アイヌ文化あれこれ Vol.51 アイヌ語地名の世界 1 「幸福」	2016年4月15日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.52 アイヌ語地名の世界 2 「然別(しかりべつ)」	2016年5月13日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.53 アイヌ語地名の世界 3 黒曜石のアイヌ語地名	2016年6月17日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.54 アイヌ語地名の世界 4 「パンケ」と「ベンケ」	2016年7月15日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.55 アイヌ語地名の世界 5 「オタヌプリ」	2016年8月19日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.56 アイヌ語地名の世界 6 「みどり」と「まんき」	2016年9月16日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.57 アイヌ語地名の世界 7 「女満別(めまんべつ)」と「芽室(めむろ)」	2016年10月14日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.58 アイヌ語地名の世界 8 「訓子府」ー地名に見えるいろいろな色ー	2016年11月18日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.59 アイヌ語地名の世界 9 「風連」ー地名に見えるいろいろな色 その2ー	2016年12月16日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.60 アイヌ語地名の世界 10 「レトラ(白い)」ー地名に見えるいろいろな色 その3ー	2017年1月13日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.61 アイヌ語地名の世界 11 同じ地名がここにも その1 ーマコマナイー	2017年2月17日	配信
		アイヌ文化あれこれ Vol.62 アイヌ語地名の世界 12 同じ地名がここにも その2 ーモイワー	2017年3月17日	配信

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
舟山直治	北の白球ものがたり 北海道博物館の特別展から ⑤テーブル野球盤と 野球ゲーム	北海道新聞(2017年9月 夕刊)	北海道新聞社	寄稿

【自然研究グループ(3件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
表溪太	シマフクロウ保護を 札幌 研究者が活動紹介	北海道新聞 (2017 年 5 月 1 日 朝刊)	北海道新聞社	協力
表溪太	シマフクロウ 道と露 別種の可能性	毎日新聞 (2017 年 5 月 10 日 朝刊)	毎日新聞社	協力
表溪太	北海道のシマフクロウ 謎に迫る	ほっとニュース北海道(2017 年 5 月 12 日放送)	NHK 札幌放送局	協力

【歴史研究グループ(55 件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
右代啓視・鈴木琢也	択捉島で学術調査	釧路新聞(2017 年 6 月 13 日)	釧路新聞社	協力
右代啓視・鈴木琢也	択捉島に「先史文化探検隊」	毎日新聞(2017 年 6 月 13 日)	毎日新聞社	協力
右代啓視・鈴木琢也	別飛調査で 2 遺跡発見ー島の子ら「先史文化探検隊」	根室新聞(2017 年 6 月 14 日)	根室新聞社	協力
右代啓視・鈴木琢也	ロ側船訪問団が根室港に到着	北海道新聞(2017 年 10 月 6 日)	北海道新聞社	協力
右代啓視・鈴木琢也	ビザなし交流 一般の山梨 学術交流道北へ	根室新聞(2017 年 10 月 6 日)	根室新聞社	協力
右代啓視・鈴木琢也	どうなる北方領土 四島訪問団	北海道新聞(2017 年 10 月 6 日)	北海道新聞社	協力
右代啓視・鈴木琢也	天塩の歴史に興味津々	北海道新聞(2017 年 10 月 7 日)	北海道新聞社	協力
右代啓視・鈴木琢也	学術交流継続の意義 博物館訪問団帰島	根室新聞(2017 年 10 月 13 日)	根室新聞社	協力
右代啓視・鈴木琢也	露訪問団 慰霊碑など視察	読売新聞(2017 年 10 月 13 日)	読売新聞社	協力
右代啓視・鈴木琢也	ロシア側訪問団 遺跡共同発掘を	毎日新聞(2017 年 10 月 13 日)	毎日新聞社	協力
右代啓視	まど 択捉島の「探検隊」	北海道新聞(2017 年 10 月 30 日)	北海道新聞社	協力
三浦泰之	特集 来年「北海道」命名 150 年 北海道の名付け親「松浦武四郎」	イチオシ!NEWS(2017 年 5 月 15 日放送)	HTB	出演
三浦泰之	特別展「プレイボール!」紹介	ファイターズ DE ナイト(2017 年 6 月 22 日放送)	HBC ラジオ	協力
三浦泰之	北の球史凝縮	日刊スポーツ(2017 年 6 月 23 日 道内版)	日刊スポーツ新聞社	協力
三浦泰之	北海道博物館特別展「北海道と野球をめぐる物語」8 日開幕	北海道新聞(2017 年 7 月 5 日 朝刊)	北海道新聞社	協力
三浦泰之	北海道と野球 歩みを紹介	朝日新聞(2017 年 7 月 6 日 朝刊 道内版)	朝日新聞社	協力
三浦泰之	北海道と野球 あすから特別展	ほっとニュース北海道(2017 年 7 月 7 日放送)	NHK 札幌放送局	出演
三浦泰之	北の文化 野球の歴史と北海道	朝日新聞(2017 年 7 月 8 日 朝刊)	朝日新聞社(道内版)	寄稿
三浦泰之	栄光の北海道球史 札幌で特別展	北海道新聞(2017 年 7 月 8 日 夕刊)	北海道新聞社	協力
三浦泰之	千客万来中継	ウィークエンドバラエティ 日高晤郎ショー(2017 年 7 月 8 日放送)	STV ラジオ	出演
三浦泰之	野球特別展プレイボール! 北海道博物館 道との関わり探る	朝日新聞(2017 年 7 月 9 日 朝刊)	朝日新聞社(道内版)	協力
三浦泰之	北海道の野球史たどる 札幌で写真や道具展示	読売新聞(2017 年 7 月 9 日 朝刊)	読売新聞社(道内版)	協力
三浦泰之	北海道博物館特別展 300 勝スタルヒンお宝グラフ展示	スポーツ報知(2017 年 7 月 9 日 朝刊)	スポーツ報知新聞社(道内版)	協力
三浦泰之	「北海道と野球」札幌の特別展	北海道新聞(2017 年 7 月 9 日 朝刊)	北海道新聞社	協力
三浦泰之	情報ブレンド プレイボール!ー北海道と野球をめぐる物語ー	つながる@北カフェ(2017 年 7 月 11 日放送)	NHK 札幌放送局	出演
三浦泰之	特集 北海道と野球	イチオシ!NEWS(2017 年 7 月 17 日放送)	HTB	協力
三浦泰之	カーナビ中継	カーナビラジオ午後一番!(2017 年 8 月 8 日放送)	HBC ラジオ	出演

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
三浦泰之	北海道博物館 野球をテーマに特別展「プレイボール！」開催中	月刊クオリティ(2017年9月号)	株式会社 太陽	協力
三浦泰之	新・北の美 第47回都市対抗野球大会北海道地区予選決勝リーグ戦バスター	季刊北方圏 2018 夏・秋 Vol.180	北海道国際交流・協力総合センター	寄稿
三浦泰之	北の白球ものがたり 北海道博物館の特別展から ①戦争に散った北海のエース	北海道新聞(2017年8月30日 夕刊)	北海道新聞社	寄稿
三浦泰之	北の大地と民を守れ! 松浦武四郎・北海道の名付け親	英雄たちの選択(2017年9月21日放送)	NHK BS プレミアム	出演
三浦泰之	北海道150年 先人探訪(松浦武四郎特集)「情報通 見聞広く伝え」	読売新聞(2017年12月6日 朝刊)	読売新聞社(道内版)	寄稿
三浦泰之	札幌歴史ぶらりー第3回 北海道の“名付け親”松浦武四郎 後編 2018年・北海道命名150年にちなんで vol.2	ASAHI モーニングジャーナル(2017年12月17日号)	朝日新聞札幌中央販売	協力
三浦泰之	新・北の美 松浦武四郎「新板蝦夷土産道中寿五六」	季刊北方圏 2018 冬 Vol.181	北海道国際交流・協力総合センター	寄稿
三浦泰之	特集 北海道命名から150年 幕末の探検家松浦武四郎の軌跡	季刊鶴雅まろうど便り 2017-2018 冬 no.63	鶴雅グループ	協力
三浦泰之	特集・北海道150年 アイヌを愛した武四郎	月刊イズム 2018年1・2月号	情報企画	協力
三浦泰之	北海道150年 この地に宿る武四郎の魂	北海道新聞(2018年1月1日特集号)	北海道新聞社	協力
三浦泰之	北海道150年 アイヌと共生へ「北加伊道」北の大地名付け親 松浦武四郎	毎日新聞(2018年1月1日特集号)	毎日新聞社(道内版)	協力
三浦泰之	「北海道」命名から150年 松浦武四郎生誕200年	十勝毎日新聞(2018年1月1日特集号)	十勝毎日新聞社	協力
三浦泰之	三重出身武四郎生誕二百年 根付け 共生の願い	中日新聞(2018年1月1日特集号)	中日新聞社	協力
三浦泰之	展望2018 「北海道」命名150年 松浦武四郎の足跡	ほっとニュース北海道(2018年1月9日放送)	NHK 札幌放送局	出演
三浦泰之	石狩川	新日本風土記(2018年1月5日放送)	NHK BS プレミアム	協力
三浦泰之	「北海道」150年で脚光 気骨の探検家・松浦武四郎	中部経済新聞(2018年1月9日)(共同通信配信記事)	中部経済新聞社(共同通信配信記事)	協力
三浦泰之	特集 [北海道] の名付け親 松浦武四郎が辿った阿寒	季刊鶴雅まろうど便り 2018 春 no.64	鶴雅グループ	協力
三浦泰之	特集 生誕200年、松浦武四郎	広報まつさか vol.158 2018年2月号	松阪市役所秘書広報課	協力
三浦泰之	イチオシスベシヤルへえ!【ほおへ! 150年 あなたと選ぶ重大ニュース	2018年3月6日放送	HTB	出演
三浦泰之	新・北の美 松浦武四郎「道名之儀取調候書付」	季刊北方圏 2018 春 Vol.182	北海道国際交流・協力総合センター	寄稿
三浦泰之	特集「松浦武四郎」	hello! HOKKS 2018年3月30日放送	エフエム北海道(AIR-G)	出演
三浦泰之	「寿都町橋本家(鯉御殿)」における歴史的資料調査	2017年9月11日～14日	NPO 法人歴史的地域資産研究機構	協力
三浦泰之	地域研究レポート 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎	My 舎人倶楽部 22 2018年4月1日号	敬文社	寄稿
山田伸一	北の白球ものがたり 北海道博物館の特別展から② 野球伝えた米教師	北海道新聞(2017年9月6日 朝刊)	北海道新聞社	寄稿
東俊佑	蝦夷地奉行定書について	NHK ニュース(2018年1月8日放送)	NHK 札幌放送局	協力
東俊佑	松前藩のアイヌ宛て文書(蝦夷地奉行定書)	読売新聞(2018年1月10日 朝刊)	読売新聞社	協力
東俊佑	アイヌ宛て最古の文書(蝦夷地奉行定書)	毎日新聞(2018年1月11日 朝刊)	毎日新聞社	協力
東俊佑	道東のアイヌ民族へ文書(蝦夷地奉行定書)	北海道新聞(2018年1月21日 朝刊)	北海道新聞社	協力

【生活文化研究グループ(10件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
池田貴夫	北海道教育旅行説明会・相談会アドバイザー	2017年7月24日～28日	一般社団法人北海道体験観光推進協議会	協力
池田貴夫	明日をつくる 食の喜び北海道150年 食卓の変遷ー	北海道新聞 (2018年1月1日)	北海道新聞社	協力
会田理人	北海道博物館特別展「プレイボール! 北海道と野球をめぐる物語」	Sparkle Sparkler (2017年7月5日放送)	エフエム北海道(AIR-G)	出演
会田理人	北海道博物館特別展「プレイボール! 北海道と野球をめぐる物語」	NIKK Bottoms up! CONNETION (2017年9月1日放送)	エフエム北海道(AIR-G)	出演

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
会田理人	北海道ファンマガジン	北海道ファンマガジン(2017年7月25日掲載)	北海道リレーション株式会社	協力
会田理人	北海道博物館 野球をテーマに特別展「プレイボール！」開催中	月刊クオリティ (2017年9月号)	株式会社 太陽	協力
会田理人	北の白球ものがたり 北海道博物館の特別展から ③拓銀の応援団	北海道新聞 (2017年9月8日 夕刊)	北海道新聞社	寄稿
会田理人	はなし抄「権太野球物語」	北海道新聞 (2017年9月17日 朝刊)	北海道新聞社	協力
会田理人	夏の高校野球100回大会に向けて 第1部「草創期から終戦」⑤	朝日新聞北海道版 (2018年1月7日 朝刊)	朝日新聞社	協力
会田理人	北海道開拓の村 インバウンド事業	HTB イチオン (2018年1月23日放送)	HTB	出演

【博物館研究グループ(10件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
堀繁久	ほっかいどうイキモノノート「新札幌駅」	THE JR HOKKAIDO (No.354)(2017年8月号)		協力
堀繁久	卓上四季	北海道新聞 (2017年8月17日)	北海道新聞社	協力
堀繁久	昆虫生息域に異変?	毎日新聞 (2017年11月29日)	毎日新聞社	協力
堀繁久	親と子サンデー「夏真っ盛り、虫とりに行こう」	北海道新聞 (2017年7月16日)	北海道新聞社	協力
堀繁久	エダナナフシ道内で見つけた	北海道新聞 (2017年9月25日)	北海道新聞社	協力
堀繁久	シラカバ林「食害」深刻、石狩や空知カミクリムシ入り込む	北海道新聞 (2017年11月16日)	北海道新聞社	協力
栗原憲一	「地球事変〜大量絶滅のナン」解説員	「地球事変〜大量絶滅のナン」(2017年12月4日〜5日撮影)	テレコムスタッフ株式会社	協力
栗原憲一	三笠ジオパークジオカフェ コーディネーター	三笠ジオパークジオカフェ	三笠ジオパーク推進協議会事務局	協力
栗原憲一	ガイドブック作成にかかわる助言	ガイドブック作成	株式会社コササル	協力
村上孝一	北の白球ものがたり 北海道博物館特別展から ④プロ野球今昔	北海道新聞 (2017年9月15日 夕刊)	北海道新聞社	寄稿

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(6件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
大坂拓	《エカシスプリ(古の風習)9》刀帯づくりあれこれ(5)	ウェブマガジン月刊シロロ 5月号(2017年5月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	《エカシスプリ(古の風習)10》刀帯づくりあれこれ(6)	ウェブマガジン月刊シロロ 6月号(2017年6月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	《エカシスプリ(古の風習)11》昔はどうだった? 矢筒の使い方	ウェブマガジン月刊シロロ 8月号(2017年8月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	《エカシスプリ(古の風習)12》荷縄あれこれ(1)	ウェブマガジン月刊シロロ 12月号(2017年12月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	フォーラム型情報ミュージアム アイヌ資料データベースに関する会議における助言	フォーラム型情報ミュージアム アイヌ資料データベースに関する会議	国立民族学博物館	協力
アイヌ民族文化研究センター	(当館総合展示に関する紹介記事)	Hokkaido Walker(WEB)		協力

広報誌の発行(ちゃれんがニュース)

講演会や講座などの各種普及行事、展示会、館の動きなどの活動全般を定期的に発信することを目的に、年4回『森のちゃれんがニュース』を発行しています。道内外の博物館や教育機関、公共施設、研究機関などに送付しているほか、館内に配置して、来館者が自由に持ち帰ることができるようにしています。

平成28年度のちゃれんがニュース

巻号	発行日	内 容	執 筆 等
4号	2016年7月29日	特別展「ジオパークへ行こう！」開幕 館長挨拶「開館1周年を迎えて」 特別展「ジオパークへ行こう！」企画者インタビュー「ジオパークと博物館―地域の価値を伝える―」 研究活動紹介「生活文化資料の活用に向けて」 博物館スタッフインタビュー「カナダ・ロイヤル・アルバート博物館と共同研究に関する覚書に調印」 博物館スタッフインタビュー「博物館オリジナルラテアートで一息つきませんか」 アイヌ民族文化研究センターだより「第1回アイヌ文化巡回展開催」採録資料の公開について 行事のおしらせ／活動ダイアリー／人事異動／来館者数	— 石 森 秀 三 栗 原 憲 一 舟 山 直 治 中 村 亘 木 村 彩 華 小 川 正 人 —
5号	2016年9月30日	屋上スカイビューもお楽しみください 特別展「ジオパークへ行こう！」近況報告 『北広島子ども学芸員』が大人気マンモスゾウ実物大模型を解説 企画テーマ展「漂着物」企画者インタビュー「漂着物のメッセージ」 研究活動紹介「文化財の健康診断」 博物館スタッフインタビュー「来館者と博物館をつなぐ、解説員」 アイヌ民族文化研究センターだより 「第2回アイヌ文化巡回展開催」『アイヌ文化紹介小冊子』のご案内 行事のおしらせ／活動ダイアリー／来館者数	— — — 圓 谷 昂 史 杉 山 智 昭 折 館 里 佳 — — —
6号	2016年12月22日	研究交流事業紹介①招聘者インタビュー「ロシア・サハリン州郷土館から研究者2名を招聘」 研究交流事業紹介②派遣職員インタビュー「カナダ・アルバータ州に当館職員2名を派遣」 研究活動紹介「第2回特別展『ジオパークへ行こう！』を終えて」 展示会予告「蔵出し展『アイヌ民族の造形美―北海道博物館所蔵の木盆―』」 アイヌ民族文化研究センターだより 「“Interpretive Center” ―アルバータ州の先住民族文化の展示施設を見学して―」 行事のおしらせ／活動ダイアリー／来館者数	オルガ=シュビナ イーゴリ=サマリ 甲 地 利 恵 表 溪 太 栗 原 憲 一 大 坂 拓 甲 地 利 恵 — —
7号	2017年3月31日	皇太子殿下が北海道博物館をご視察されました 総合展示室の活動紹介「北海道博物館をより楽しむために―クローズアップ展示のご紹介―」 企画テーマ展予告『夜の森』で動物を探そう！ 研究活動紹介「漂着物の魅力を紹介」 博物館スタッフインタビュー「先生方の声を聞き、より利用しやすい博物館へ」 博物館スタッフインタビュー「文化財を守るために、小さな変化を見逃さない」 アイヌ民族文化研究センターだより「久保寺先生・久保寺逸彦文庫とわたし」 行事のおしらせ／活動ダイアリー／来館者数	— 出利葉浩司 表 溪 太 圓 谷 昂 史 吉 田 公 伸 南 雅 文 佐々木利和 —

平成 29 年度のちやれんがニュース

巻号	発行日	内 容	執 筆 等
8 号	2017 年 6 月 30 日	今年も白熱、恒例行事「縄文土器をつくる」	—
		イベントレポート 『夜の森』でコウモリ観察	表 溪 太
		展示会予告 「第3回特別展『プレイボール！ー北海道と野球をめぐる物語ー』」	三 浦 泰 之
		研究活動紹介 「北海道・住まいの道のりをたどって」	小 林 孝 二
		ピックアップ 「スマートフォンを片手に、ぶらり北海道博物館」	池 田 貴 夫
		アイヌ民族文化研究センターだより 「第3回アイヌ文化巡回展を羅臼町で開催」	—
		行事のおしらせ／活動ダイアリー／人事異動／来館者数	—
9 号	2017 年 10 月 17 日	スピードガンコンテストに挑戦	—
		展示会レポート 「展示が紡ぐ、野球の『物語』」	春 木 晶 子
		展示会予告 「第9回企画テーマ展『弥永コレクション』」	堀 繁 久
		研究活動紹介 「シマフクロウの歴史をひもとく」	表 溪 太
		ピックアップ 「北海道博物館の学芸員実習」	春 木 晶 子
		アイヌ民族文化研究センターだより 『『ほっかいどうアイヌ語アーカイブ』のご案内』	小 川 正 人
		行事のおしらせ／活動ダイアリー／来館者数	—
10 号	2017 年 12 月 28 日	博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり『北のみゆぜふえす』を開催	—
		研究交流事業紹介① サハリン州郷土館との交流	表 溪 太
		「(対談) ロシア・サハリン州での調査を振り返って」	圓 谷 昂 史
		研究交流事業紹介② ロイヤル・アルバート博物館との交流	甲 地 利 恵
		「ロイヤル・アルバート博物館の研究者2名を迎えました！」	—
		研究活動紹介 「アイヌ文学から『カムイ』を学ぶ」	大 谷 洋 一
		アイヌ民族文化研究センターだより 「第10回企画テーマ展『カムイとアイヌのものがたり』へのご招待」	小 川 正 人
		行事のおしらせ／活動ダイアリー／人事異動／来館者数	—
11 号	2018 年 3 月 28 日	第10回企画テーマ展『カムイとアイヌのものがたり』を開催	—
		資料紹介 「森のちやれんがの権現様」	舟 山 直 治
		研究活動紹介 「〈北海道らしさ〉の秘密をより鮮明に」	池 田 貴 夫
		イベントレポート 「北海道博物館の〈古文書講座〉」「バックヤードツアーを開催しました」	池 田 貴 夫
		アイヌ民族文化研究センターだより 「山田秀三先生の地名調査」	佐々木利和
		活動ダイアリー／来館者数	—

ホームページ(URL: <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>)

利用案内や総合展示の概略の紹介のほか、企画展やイベント情報などを提供しています。その他に、利用者の知的興味に応えるため、収蔵資料検索や「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」といった学びに関するページも設置しています。



ホームページのトップ画面

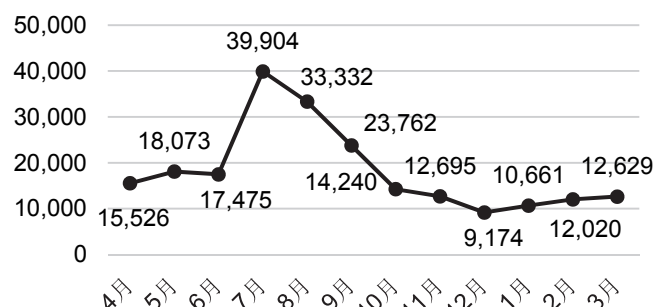


収蔵資料検索システム画面(検索条件:「美術」)

平成 28 年度のホームページアクセス件数

4 月	15,526	11 月	12,695
5 月	18,073	12 月	9,174
6 月	17,475	1 月	10,661
7 月	39,904	2 月	12,020
8 月	33,332	3 月	12,629
9 月	23,762	合計	219,491
10 月	14,240	月平均	18,291

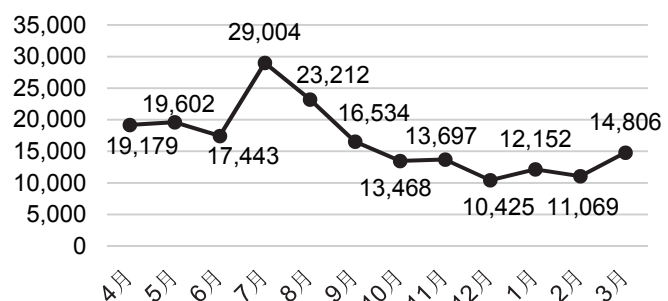
アクセス数の推移



平成 29 年度のホームページアクセス件数

4 月	19,179	11 月	13,697
5 月	19,602	12 月	10,425
6 月	17,443	1 月	12,152
7 月	29,004	2 月	11,069
8 月	23,212	3 月	14,806
9 月	16,534	合計	200,591
10 月	13,468	月平均	16,716

アクセス数の推移



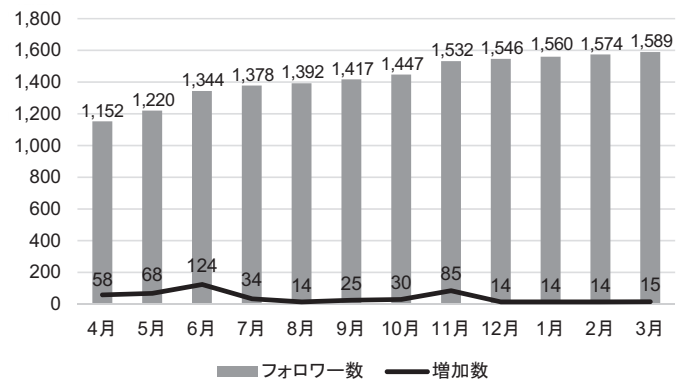
ソーシャルメディア

情報提供の迅速性と拡散性にすぐれたソーシャルメディアとして、ツイッターを使って幅広い情報発信を行っています。

公式ツイッターアカウント：@Hokkaido_Museum

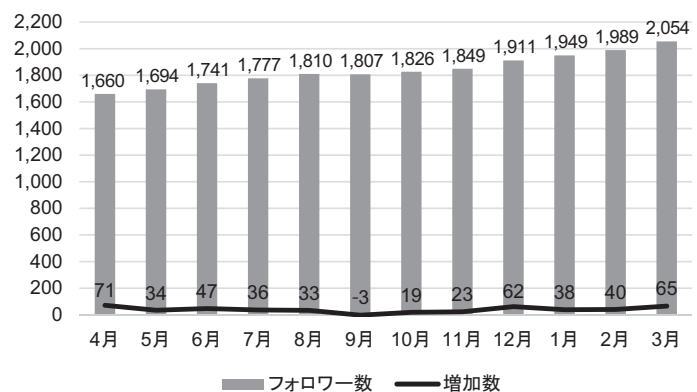
平成 28 年度のツイッター フォロワー数

4 月	1,152	10 月	1,447
5 月	1,220	11 月	1,532
6 月	1,344	12 月	1,546
7 月	1,378	1 月	1,560
8 月	1,392	2 月	1,574
9 月	1,417	3 月	1,589



平成 29 年度のツイッター フォロワー数

4 月	1,660	10 月	1,826
5 月	1,694	11 月	1,849
6 月	1,741	12 月	1,911
7 月	1,777	1 月	1,949
8 月	1,810	2 月	1,989
9 月	1,807	3 月	2,054



出版活動

調査研究をはじめとする博物館活動の成果を伝えるため、また博物館の展示などをわかりやすく伝えるため、さまざまな刊行物を編集・発行しています。これらの出版物は、総合展示場の地下階にある図書室に配置するとともに、国立国会図書館、全国の都道府県立図書館、北海道内の公共図書館などに寄贈しています。また、総合展示ガイドブック『ビジュアル北海道博物館』や特別展の図録など、出版物の一部は館内のミュージアムショップ（011-898-0466）にて販売しているほか、『北海道博物館研究紀要』と『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』については、北海道庁内の「行政情報センター」（011-204-5222）で購入できます。（品切れのものもございますので、お買い求めの際はお電話にてご確認ください）

平成 28 年度に出版した刊行物

刊行物名称	発行日	判型	頁数
北海道博物館研究紀要 第2号	2017年3月	A4判	150
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第2号	2017年3月	A4判	154
北海道博物館第2回特別展 ジオパークへ行こう！ー恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅ー 展示・ジオパークまるわかりガイドブック（第2回特別展図録）	2016年7月	A5判	128
北海道博物館要覧 2015	2017年3月	A4判	178
森のちゃれんがニュース 第4～7号		A4判	各8
第5回企画テーマ展 「アイヌ民族資料を守り伝える力」（第5回企画テーマ展パンフレット）	2016年4月	A4判	4
第6回企画テーマ展 「きれい？不思議？楽しい！？漂着物」（第6回企画テーマ展パンフレット）	2016年10月	A4判	4
第7回企画テーマ展 「あったか住まい」（第7回企画テーマ展パンフレット）	2017年2月	A4判	4

平成 29 年度に出版した刊行物

刊行物名称	発行日	判型	頁数
北海道博物館研究紀要 第3号	2018年3月	A4判	266
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第3号	2018年3月	A4判	166
北海道博物館第3回特別展「プレイボール！ー北海道と野球をめぐる物語」ガイドブック（第3回特別展図録）	2017年7月	A4判	104
アイヌ文化小冊子「ポン カンピソシ4 住まい」（第3刷）	2017年7月	A5判	32
北海道博物館一括資料目録第1集 弥永コレクション	2017年10月	A4判	122
森のちゃれんがニュース（第8～11号）		A4判	各8
第8回企画テーマ展 「夜の森ーようこそ！動物たちの世界へー」（第8回企画テーマ展パンフレット）	2017年4月	A4判	4
第9回企画テーマ展 「弥永コレクション」（第9回企画テーマ展パンフレット）	2017年10月	A4判	4
第10回企画テーマ展 「カムイとアイヌのものがたり」（第10回企画テーマ展パンフレット）	2018年2月	A4判	4

『ビジュアル北海道博物館』

平成 27 年度文化庁「文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業」により平成 28（2016）年 3 月に刊行した、北海道博物館の総合展示をくわしく紹介した、オールカラーのガイドブック（A4 判、全 119 ページ）です。



9 アイヌ民族文化研究センターの活動

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターは、北海道の貴重な財産であるアイヌ文化について、伝承者の高齢化等が進むなか、道の責務として総合的・体系的な研究を行い、その成果の普及等を図りアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的に、平成6（1994）年6月に設立されました。開設後は、「調査研究やその成果の普及事業」「情報収集及び提供事業」「研究支援事業」の3つの柱により事業を展開してきました。

北海道博物館においても、内部組織としてアイヌ民族文化研究センターを置き、アイヌ民族の歴史や有形・無形の文化に関するさまざまな事業の中心を担うことを主な業務としています。

アイヌ文化巡回展

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、寄贈を受けた貴重な資料である「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の整理作業の成果を踏まえ、道内各地で「企画展」や「資料展」を開催してきました。

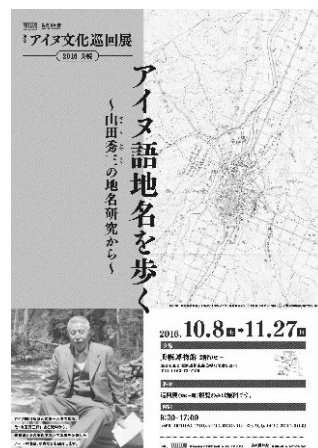
北海道博物館の開設初年度であった平成27（2015）年度は実施を見送りましたが、北海道の中核的博物館としてアイヌ文化の理解促進に資する役割を果たすため、平成28（2016）年度から、道内市町村等との協力のもと、地域的なバランスや開催地の要望を踏まえながら、「地名」や「物語」などを主なテーマとした「アイヌ文化巡回展」を再開しました。また、開催にあたっては、開催地の博物館等と連携し、アイヌ文化を紹介する講座等も実施しています。

平成28年度のアイヌ文化巡回展

名 称	第1回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2016 枝幸
会 期	2016年7月5日（火）～9月4日（日）
観 覧 者 数	2,705人
場 所	オホーツクミュージアムえさし（枝幸郡枝幸町）
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、枝幸町とその周辺での地名調査を記録した地図やノート、写真などを紹介しました。
関 連 普 及 行 事	・講座「アイヌ文化にゆうもん講座」 ・講演会「枝幸町のアイヌ民族資料について」（講師：山崎幸治氏（北海道大学准教授）ほか）
共 催	オホーツクミュージアムえさし



名 称	第2回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2016 美幌
会 期	2016年10月8日（土）～11月27日（日）
観 覧 者 数	1,014人
場 所	美幌博物館（網走郡美幌町）
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、美幌町とその周辺での地名調査を記録した地図やノート、写真などを紹介しました。
関 連 普 及 行 事	—
共 催	美幌博物館



平成 29 年度のアイヌ文化巡回展

名 称	第 3 回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2017 羅臼
会 期（開催日数）	2017 年 7 月 22 日（土）～10 月 18 日（水）
観 覧 者 数	952 人
場 所	羅臼町郷土資料館（目梨郡羅臼町）
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、羅臼町とその周辺での地名調査を記録した地図やノート、写真などを紹介しました。
関 連 普 及 行 事	アイヌの楽器「ムックリ」「トンコリ」を弾いてみよう（羅臼町立春松小学校）
共 催	羅臼町教育委員会、羅臼町郷土資料館



資料の公開

アイヌ語、口承文芸、伝統的な生活や歴史的な出来事などについて、伝承者や体験者からの聞き取り等によって記録された資料や写真、録画などは、アイヌ文化の調査研究や継承にとって、たいへん貴重な資料です。一方で、これらの資料には、著作権やプライバシーなどに対する慎重な配慮が必要です。

当館では、このようなアイヌ文化に関する採録資料等については、まずその内容確認を行い、プライバシー情報の有無などを点検し、原則としてその資料の関係者（語り手等）と協議し、承諾を得てから公開することとしています。

公開する資料については、公開用の複製（公開用資料）を作成しています。公開用資料を作成することにより、もとの資料の保存を図るとともに、プライバシー等の事由により非公開とすることとした部分の削除等の処理を行い、関係者の権利が侵害される恐れがないようにしています。

現在のところ、公開用資料は、音声・映像資料については CD、DVD 等で、文書資料や写真資料については紙焼きまたはデジタル画像データで作成しています。

種別		2015 年度までに 公開準備を終えた点数		2016 年度に 公開準備を終えた点数		2017 年度に 公開準備を終えた点数	
		原資料	作成した 公開用資料	原資料	作成した 公開用資料	原資料	作成した 公開用資料
音声・ 映像資料	当館（アイヌ民族文化研究センター） 採録・複製資料（職員による採録など）	274	259	277(+3)	262(+3)	280(+3)	265(+3)
	山田秀三文庫	91	64	91	64	91	64
	久保寺逸彦文庫	77	112	77	112	77	112
	小計	442	435	445(+3)	438(+3)	448(+3)	441(+3)
文書資料	山田秀三文庫	102	—	102	—	102	—
	久保寺逸彦文庫	10	—	10	—	10	—
	小計	112	—	112	—	112	—
写真資料	久保寺逸彦文庫	483	—	483	—	483	—
合計		1037	—	1040(+3)	—	1043(+3)	—

※ 数字は累計の点数。ただし、（ ）内は新規公開資料の点数。

※ 文書資料及び写真資料は、公開用資料を作成していません。（閲覧等の利用には、紙焼き（プリントアウト）等を提供しています。）

平成 28 年度のアイヌ文化関連の資料閲覧(31 件)

文 書	音声・映像	民 具	そ の 他
6	13	8	4

平成 29 年度のアイヌ文化関連の資料閲覧(24 件)

文 書	音声・映像	民 具	そ の 他
6	8	4	6

ホームページによる情報提供

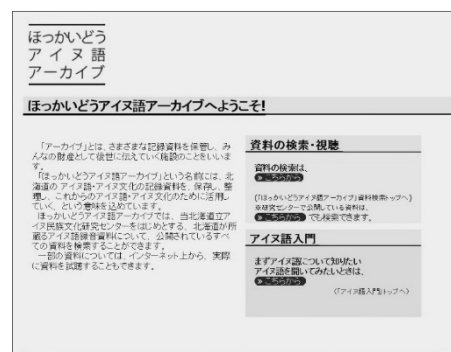
旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、平成13(2001)年度からインターネット上にホームページを開設し、事業のあらましや研究センターの出版物、公開している資料などを紹介するほか、アイヌ文化に関する連載記事などを通じた情報提供を行ってきました。

北海道博物館の開館後は、館のホームページの中にこれらのページを移行して運用しています。

ほっかいどうアイヌ語アーカイブ

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、平成23(2011)～平成24(2012)年度に、国(内閣府)の交付金を受けて「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」を実施し、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の音声資料の公開を進めました。また、インターネットを通してこれらの資料を検索し視聴することができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を構築しました。

現在は北海道博物館のホームページ内に「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を設け、研究センターが公開している音声資料などを検索し視聴することができるようになってます。また、アイヌ語や口承文芸、芸能などを初心者向けにわかりやすく紹介する「アイヌ語入門」のページも設けています。



アイヌ文化紹介小冊子の発行

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、国連の定めた「世界の先住民の国際10年」(平成6(1994)年12月～平成16(2004)年12月)の記念事業として、アイヌ文化に関する専門的な内容をわかりやすく親しみやすいかたちで紹介した小冊子『アイヌ文化紹介小冊子 ポン カンピソシ』を、毎年1冊ずつ発行しました。

北海道博物館においても、アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するために、引き続き『ポン カンピソシ』の活用を図っています。

平成29(2017)年度には「4 住まい」の増刷を行いました。



学習・伝承活動の支援

市町村などの関係機関やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられる、学習や伝承活動に対する専門的な知見からの助言や支援の依頼に応じています。また、アイヌ文化に関する情報提供や当館資料の照会は、日常的な電話により対応しています。アイヌ文化関連のレファレンス件数は、平成 28（2016）年度は 60 件、平成 29（2017）年度は 99 件でした。

平成 28 年度の他機関、団体への学習・伝承支援件数(講座・講演会の講師等は除く) (4 件)

対応日	依頼先	内容	対応者
12 月 27 日 ～2017 年 3 月 6 日	一般財団法人アイヌ民族博物館	伝統的生活空間再生事業「伝承者（担い手）育成事業」における「アイヌの歌謡について」（全 3 回）	甲地利恵
6 月 18 日～12 月 3 日	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	平成 28 年度実践上級講座口承文芸伝承者（語り部）育成事業（白糠地区）における解説指導員	田村雅史
10 月 19 日～11 月 22 日	一般財団法人アイヌ民族博物館	伝統的生活空間再生事業「伝承者（担い手）育成事業」におけるアイヌ民族の儀礼用冠について（全 3 回）	大坂拓
12 月 ～2017 年 3 月 31 日	平取町立アイヌ文化博物館	平成 28 年度アイヌ語アーカイブ作成支援事業におけるアイヌ語資料の聞き起こしテキストの校閲等	遠藤志保 大坂拓

平成 29 年度の他機関、団体への学習・伝承支援件数(講座・講演会の講師等は除く) (3 件)

対応日	依頼先	内容	対応者
10 月 13 日、20 日	平取アイヌ文化保存会	現在うたわれていない沙流川流域のウポボを学ぶ(全 2 回)	甲地利恵
6 月 24 日 ～11 月 24 日	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	平成 29 年度実践上級講座口承文芸伝承者（語り部）育成事業（白糠地区）における解説指導員	田村雅史
8 月 ～2018 年 3 月 31 日	平取町立アイヌ文化博物館	平成 29 年度アイヌ語アーカイブ作成支援事業におけるアイヌ語資料の聞き起こしテキストの校閲等	遠藤志保

10 北海道開拓の村整備事業

昭和 58（1983）年 4 月に開村した野外博物館・北海道開拓の村の建設は、北海道百年記念事業の一環として計画されました。建設事業は、北海道開拓記念館と、昭和 46（1971）年 4 月に設置された北海道野幌森林公園管理事務所（野幌森林公園事務所、野幌森林公園分室を経て平成 22（2010）年度をもって廃止）とで推進され、特に開拓の村の歴史建造物の復元、および内部展示の作成は開拓記念館が中心となって進められました。このことから、北海道博物館の開館後も、建造物や内部展示の保存・管理は当館の重要な業務となっています。

歴史建造物の保存にあたっては、その文化財的価値を損なわないように極力当初からの材料を生かし、修復・修繕は限定的に行うことを原則としており、この方針の基に屋根や外壁などを中心に毎年数棟ずつの修復工事を実施しています。しかし、野外展示であると同時に寒冷多雪地域であるという条件は、復元建造物の保存にとっては必ずしも条件がよいとは言えない環境であることから、加速度的に腐朽や劣化が進んでおり、その対応が大きな課題となっています。

平成 28（2016）・29（2017）年度には、以下のような補修・改修を行いました。なお、平成 29（2017）年度は「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」として、地方創生拠点整備交付金も受けて事業を実施しました。

平成 28・29 年度 北海道開拓の村の主な補修・改修工事

建造物補修工事	平成 28（2016）年度	開拓の村建造物旧広瀬写真館補修工事（第 2 期）（2016 年 8 月 31 日～11 月 30 日）
	平成 29（2017）年度	開拓の村建造物旧菊田家農家住宅工事（2017 年 6 月～11 月） 開拓の村建造物旧小川家酪農畜舎補修工事（2017 年 8 月～12 月）
展示改修	平成 29（2017）年度	開拓の村建造物旧菊田家農家住宅 開拓の村建造物旧小川家酪農畜舎
その他の改修工事・ 教材整備	平成 29（2017）年度	開拓の村展示・体験ブース整備委託業務（2017 年 8 月～2018 年 2 月） 開拓の村多言語解説板・サイン等の改修整備委託業務（2017 年 11 月～2018 年 3 月） 馬車鉄道軌道延伸改修工事（2017 年 10 月～2018 年 3 月） 吊り橋改修工事（2017 年 11 月～2018 年 3 月） 牧野牧柵改修工事（2018 年 1 月～3 月） インバウンド事業体験教材等委託製作業務（2018 年 2 月～3 月） トイレ洋式化工事（2018 年 1 月～3 月） 開拓の村屋外 Wi-Fi 設備構築工事（2018 年 3 月） 馬車鉄道車輛改修工事（2018 年 3 月）



旧小川家酪農畜舎 補修後の様子



旧菊田家農家住宅 展示・体験ブース整備後の様子

11 館長、学芸・研究職員の紹介

※ 職名はいずれも平成 29 年度末現在(ただし、退職者は退職時のもの)

石 森 秀 三 ISHIMORI Shuzo		職 名	館長
		称 号	国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授
受 賞	1986 年、大平正芳記念賞	専 門	文化人類学、博物館学、観光文明学
略 歴	【職歴】 京都大学人文科学研究所研究員(1971) 国立民族学博物館第四研究部助手(1975) 国立民族学博物館第四研究部助教授(1985) 国立民族学博物館第四研究部教授(1996) 国立民族学博物館先端民族学研究部教授(1998) 国立民族学博物館民族社会研究部長(2002) 国立民族学博物館博物館民族学研究部長(2003) 国立民族学博物館文化資源研究センター長(2004) 北海道大学観光学高等研究センター長(2006) 北海道開拓記念館長(2013) 北海道博物館長(2015) 【社会活動】 観光立国懇談会委員(内閣官房)、アイヌ政策推進会議委員(内閣官房)、文化審議会文化財分科会専門委員(文化庁)、文化審議会企画調査会会長(文化庁)、国土審議会北海道開発分科会専門委員(国土交通省)、地域資源活用促進事業委員会委員長(経済産業省)等		
主な研究業績	2017;『観光創造学へのチャレンジ』北海道大学観光学高等研究センター(共編著) 2011;『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社(共編著) 2008;『大交流時代における観光創造』北海道大学(編著) 2000;『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会(編著) 2000;『博物館資料論』放送大学教育振興会(編著) 1999;『博物館概論:ミュージアムの多様な世界』放送大学教育振興会 1996;『観光の 20 世紀』ドメス出版(編著) 1985;『危機のコスモロジー:ミクロネシアの神々と人間』福武書店		

舟 山 直 治 Naoji FUNAYAMA	職 名	学芸部長
	学 位	学士、1982 年(酪農学園大学酪農学部農業経済学科)
	担当分野	民俗
所 属 学 会	日本民俗学会、北海道・東北史研究会、北海道地域文化研究会	
研 究 課 題	・北海道における生活文化の伝承に関する研究(大祓や松前神楽の伝承、曲物製作技術について調査研究) ・博物館活動に関する研究(生活文化関係資料の活用に向けたデータベースの整備と展示会企画について調査研究) ・日本海沿岸における歴史文化遺産に関する研究(江差町、小樽市における歴史文化遺産のあり方についての調査研究)	
近年の主な業績	2018;「滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (筆頭) 2018;「北海道における民俗芸能の伝承とその特徴について」『北海道の文化』vol.90 2017;「兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (筆頭) 2017;『「松前神楽」の伝承、「松前神楽函館連合保存会」『国記録選択無形民俗文化財調査報告書 松前神楽』北海道教育委員会 2016;「加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (筆頭) 2015;「北海道における大祓にかかわる祭神の特徴」『北海道開拓記念館研究紀要』第 43 号 2014;「積丹町余別における川下祭の伝承と兵庫県の祭祀状況」『北海道地域文化研究』第 6 号	

自然研究グループ

水 島 未 記	Miki MIZUSHIMA	職 名	学芸部社会貢献グループ兼自然研究グループ学芸主幹
		学 位	修士、1993 年(北海道大学大学院農学研究科)
		担 当 分 野	生物(植物)
所 属 学 会	日本生態学会、種生物学会、日本セトロジー研究会		
研 究 課 題	・草本植物の生活史 ・動植物と人との相互作用 ・北海道における鯨類と人との関わり		
近年の主な業績	2018;「野幌森林公園地域の種子植物相」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (筆頭) 2017;「サハリンの植物相および植生から見たニヴフの植物資源利用」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (筆頭) 2017;「野幌森林公園のため池および水生植物相 ―2000 年～2004 年と 2016 年の調査から―」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (共著) 2016;「生態系を『その他大勢』にどう伝えるか ―北海道博物館における新たな自然史展示の試み―」『日本科学教育学会年会論文集』第 40 号 (筆頭) 2016;「野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとトノサマガエルの侵入および分布拡大経過について」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (共著) 2016;『ニヴフ語音声資料 13(シュミット方言) ―オリガ・ポリソヴナ・コヴァン―』札幌学院大学 (共著) 2013;「ロシア・サハリン州におけるニヴフの植物利用(4)」『北方地域の人と環境の関係史 2010-12 年度調査報告』北海道開拓記念館 (筆頭)		

添 田 雄 二	Yuji SOEDA	職 名	学芸部道民サービスグループ兼自然研究グループ学芸主査
		学 位	博士(理学)、2011 年(鹿児島大学)
		担 当 分 野	地学
所 属 学 会	日本第四紀学会		
研 究 課 題	・北海道における中～後期更新世以降のゾウ類についての研究 ・17 世紀の寒冷期と巨大噴火津波がアイヌ民族に与えた影響についての研究 ・石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元		
近年の主な業績	2018;「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響 III」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (筆頭) 2018;「北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (共著) 2017;「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響 II」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (筆頭) 2017;「伊達市カムイタプコプ下遺跡」『遺跡調査報告会資料集』北海道考古学会 (共著) 2016;「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響 I」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (筆頭) 2016;「伊達市若生貝塚、カムイタプコプ下遺跡、室蘭市絵鞆貝塚」『遺跡調査報告会資料集』北海道考古学会 (共著) 2013;「北海道のゾウ化石とその研究の到達点」『化石研究会会誌』第 45 号 (共著)		

表 溪 太 Keita OMOTE

		職 名	学芸部博物館基盤グループ兼自然研究グループ学芸員
		学 位	博士(理学)、2016 年(北海道大学大学院理学院)
		担当分野	生物(動物)
所 属 学 会	日本動物学会、日本鳥学会		
研 究 課 題	・北海道の動物の系統地理学的研究 ・博物館標本の DNA 分析を用いた生態学的研究 ・鳥類の羽毛、哺乳類毛等の形態による種同定法に関する研究		
近年の主な業績	2018;「野幌森林公園地域の種子植物相」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (共著) 2017;“Phylogeography of continental and island populations of Blakiston’s fish-owl (<i>Bubo blakistoni</i>) in Northeastern Asia” <i>Journal of Raptor Research</i>, 52(1) The Raptor Research Foundation (筆頭) 2017;“Duplication and variation in the major histocompatibility complex genes in Blakiston’s fish owl, <i>Bubo blakistoni</i>” <i>Zoological Science</i>, 34(6) Zoological Society of Japan (筆頭) 2015;“Recent fragmentation of the endangered Blakiston’s fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>) population on Hokkaido Island, northern Japan, revealed by mitochondrial DNA and microsatellite analyses” <i>Zoological Letters</i> (筆頭) 2014;“Spatial and temporal variation at major histocompatibility complex class IIB genes in the endangered Blakiston’s fish owl” <i>Zoological Letters</i> (共著) 2013;“Limited phylogenetic distribution of a long tandem-repeat cluster in the mitochondrial control region in <i>Bubo</i> (Aves, Strigidae) and cluster variation in Blakiston’s fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>)” <i>Molecular Phylogenetics and Evolution</i>, 66 (筆頭)		

圓 谷 昂 史 Takafumi EN'YA

		職 名	学芸部道民サービスグループ兼自然研究グループ研究職員
		学 位	修士、2014 年(北海道教育大学大学院理科教育専修)
		担当分野	地学
所 属 学 会	古生物学会、日本貝類学会、漂着物学会、日本理科教育学会		
研 究 課 題	・北海道から産出する軟体動物化石からみた古環境復元 ・北海道沿岸の漂着物を用いた博物館における環境教育		
近年の主な業績	2018;「北海道北広島市西の里で認められたサンドリッジ堆積物の堆積相・古流向とその意義」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (共著) 2018;「北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (筆頭) 2017;「2016 年秋の北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着」『漂着物学会誌』漂着物学会 (共著) 2016;「北海道北広島市西の里から産出した貝化石(速報)」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (筆頭) 2016;「海は温暖化しているのか? 漂着貝類から海洋環境を探る」北海道博物館協会学芸職員部会編『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》北海道で残したいモノ伝えたいコト』寿郎社 2014;「北海道日本海沿岸の打ち上げ貝類から見た生物多様性と海洋環境」『北海道教育大学大学院修士論文』 2013;「北海道苫小牧沿岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイの漂着」『漂着物学会誌』第 11 巻 (筆頭)		

歴史研究グループ

右 代 啓 視 Hiroshi USHIRO	職 名	総務部企画グループ兼歴史研究グループ学芸主幹
	学 位	博士(歴史学)、2011 年(駒澤大学大学院)
	担当分野	考古
所 属 学 会	日本考古学協会、第四紀学会、北海道考古学会、チャン学会、北方島文化研究会 他	
研 究 課 題	・千島列島における人類活動史の考古学的総合研究 ・先史文化の環境変化と文化形成の研究 ・北東アジアにおける要害遺跡の形成過程の研究	
近年の主な業績	2018;「千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅲ)ー特に北方四島の先史文化研究を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第3号 (筆頭) 2017;“Study of the History of Anthropogenic Activity on the Kuril Islands and an Approach to Solving Problems Existing in the Area.” <i>Circum-pacific Archeology: In the Memory of Igor Yakovlevich Shevkomud</i> 2017;「古環境復元と遺跡の立地」『浜頓別町ブタウス遺跡報告書』浜頓別町教育委員会 (筆頭) 2017;「千島列島における人類活動史の考古学総合研究(Ⅱ)ー特に北方四島の先史文化研究を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第2号 (筆頭) 2016;「オホーツク文化の展開」北海道史研究協議会(編)『北海道史事典』北海道出版企画センター 2016;「千島列島における人類活動史の考古学的研究(Ⅰ)ー特に北方四島の先史文化研究を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第1号 (筆頭) 2015;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(V)」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号 (筆頭)	

三 浦 泰 之 Yasuyuki MIURA	職 名	総務部企画グループ兼歴史研究グループ学芸主幹
	学 位	学士、1996 年(京都大学文学部日本史学科)
	担当分野	歴史(近世・近代)
所 属 学 会	日本史研究会、北海道史研究協議会、松浦武四郎研究会	
研 究 課 題	・北海道内における「文書資料」「記録資料」の所在把握と活用に関する基礎的研究 ・近世・近代における北海道の文化史に関する基礎的研究 ・北海道記録映画史に関する基礎的研究 ・松浦武四郎の生涯と幕末・明治期の北海道及び日本社会に関する基礎的研究	
近年の主な業績	2017;「松浦武四郎記念館所蔵『蝦夷屏風』に貼り交ぜの領収証類について(5)ー安政五年(1858)分(1)ー」『松浦武四郎研究会会誌』第74号 松浦武四郎研究会(筆頭) 2017;「北海翁著 梅嵯峨誌」『松浦武四郎研究会会誌』第73号 松浦武四郎研究会 2016;「近世編 松前三湊の繁栄」、「資料編 北海道史に関わって活字化されている主な史料および史料集の目次情報」北海道史研究協議会(編)『北海道史事典』北海道出版企画センター 2016;「『移住』してきた〈古文書〉は語る」北海道博物館協会学芸職員部会(編)『北の学芸員とおきの《お宝ばなし》 北海道で残したいモノ伝えたいコト』寿郎社 2014;「戦前・戦後の北海道を生きた撮影技師・栃木栄吉の生涯ー北海道記録映画史序説ー」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号 2014;「神奈川大学日本常民文化研究所所蔵 林孫蔵家文書『松前町年寄詰所日記抜書』Ⅱ」『余市水産博物館研究報告別冊』(共編) 2013;「昭和戦前期の新聞写真ー小樽新聞記者藤井伝一郎旧蔵写真群についてー」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号	

山 田 伸 一 Shin'ichi YAMADA	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼歴史研究グループ学芸主査
	学 位	修士、1996 年(北海道大学大学院文学研究科)
	担 当 分 野	歴史(近現代)
所 属 学 会	日本史研究会、函館日ロ交流史研究会	
研 究 課 題	・近現代の北海道およびその周辺地域における人間と自然環境の関係史 ・近現代のアイヌ政策史・アイヌ史	
近年の主な業績	2018;「開拓使とキツネ」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 2017;「来日はバットとボールを持って ―アルバート・G・ベイツのこと―」『北海道博物館 第 3 回特別展「プレイボール！」ガイドブック』 2017;「開拓使によるキジ、ウナギ、ドジョウ、アユの移入について」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 2017;「下北半島風間浦村、大石神社の『蝦夷地・場所図』はどこを描いたものか」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 2015;「平福百穂『アイヌ』の周辺」『北海道開拓記念館研究紀要』第 43 号 2015;「明治初期北海道におけるシカの産業利用」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』北海道開拓記念館	

鈴 木 琢 也 Takuya SUZUKI	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼歴史研究グループ学芸主査
	学 位	修士、2001 年(福島大学大学院地域政策科学研究科)
	担 当 分 野	考古
所 属 学 会	日本考古学協会、北海道考古学会、北方島文化研究会	
研 究 課 題	・日本列島北部地域における古代・中世の文化集団移動に関する研究 ・日本列島北部地域における古代・中世の物流交易に関する研究 ・北方四島における先史文化の考古学的基礎研究	
近年の主な業績	2018;「千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅲ) ―特に北方四島の先史文化研究を中心に―」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (共著) 2017;「千島列島における人類活動史の考古学総合研究(Ⅱ) ―特に北方四島の先史文化研究を中心に―」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (共著) 2017;「平泉関係遺跡集成『北海道』」『科学研究費基盤研究(B)「平泉研究の資料学的再構築」報告書 平泉関係遺跡集成』研究代表者 柳原敏昭 2016;「平泉政権下の北方交易システムと北海道在地社会の変容」『歴史評論』第 795 号 歴史科学協議会・校倉書房 2016;「須恵器からみた古代の北海道と秋田」『北方世界と秋田城 考古学リーダー25』六一書房 2016;「書評 関根達人著『中近世の蝦夷地と北方交易 アイヌ文化と内国化』」『歴史』127 輯 東北史学会 2016;「擦文文化の成立過程と秋田城交易」『北海道博物館研究紀要』第 1 号	

東 俊 佑 Shunsuke AZUMA	職 名	学芸部道民サービスグループ兼歴史研究グループ学芸主査
	学 位	修士、2002 年(東北学院大学大学院文学研究科)
	担当分野	歴史(中・近世)
所 属 学 会	北海道・東北史研究会、東北史学会、歴史学研究会、北海道史研究協議会、北方島文化研究会	
研 究 課 題	・北海道博物館所蔵の文書資料(近世文書)に関する研究 ・蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究 ・コレクション形成史からみる日露関係史	
近年の主な業績	2018;『土人給料勘定』のしくみ(Ⅰ)ー北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析ー』『北海道博物館研究紀要』第3号 2018;「北海道博物館におけるワークシートの開発と学校利用」『北海道博物館研究紀要』第3号 2017;「安永7年の蝦夷地奉行定書について」『北海道博物館研究紀要』第2号 2017;『トコンヘ一件』再考ー北蝦夷地ウシヨロ場所におけるアイヌ支配と日露関係ー」白木沢旭児(編)『北東アジアにおける帝国と地域社会』北海道大学出版会 2016;「近世編 間宮林蔵の蝦夷地・アムールランド調査」、「近世編 サンタン交易の幕府直営化とアイヌ」、「近世編 日露通好条約と樺太アイヌ」北海道史研究協議会(編)『北海道史事典』北海道出版企画センター	

春 木 晶 子 Shoko HARUKI	職 名	学芸部道民サービスグループ兼歴史研究グループ学芸員 (2017 年 10 月退職)
	学 位	修士、2011 年(北海道大学大学院文学研究科)
	担当分野	美術史
所 属 学 会	美術史学会、北海道芸術学会	
研 究 課 題	・北海道に関わる絵(特に、江戸時代に「アイヌ」を描いた絵)の調査、研究 ・北海道の絵馬(特に、北海道に特有の画題の絵馬)の調査、研究	
近年の主な業績	2016;「蝦夷地に渡った義経の物語ー北海道の絵馬からー」北海道博物館協会学芸職員部会(編)『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》 北海道に残したいモノ伝えたいコト』寿郎社 2016;「近世編 アイヌを描いた絵」北海道史研究協議会(編)『北海道史事典』北海道出版企画センター 2015;「『夷酋列像』ー12 人の『異容』と『威容』ー」『夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界』(北海道博物館特別展図録)「夷酋列像」展実行委員会・北海道新聞社 2015;「ヒーローの(諸)条件ー「奇異」なる「英雄」である夷酋列像ー」『北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌 Arctic Circle』一般財団法人北方文化振興協会 2015;「市立函館博物館所蔵(アイヌ風俗絵馬)について」『市立函館博物館研究紀要』第25号 2015;「義経蝦夷渡伝説図をめぐる」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号	

寺 林 伸 明 Nobuaki TERABAYASHI	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼歴史研究グループ学芸員 (2017 年 3 月退職)
	学 位	学士、1976 年(明治大学文学部史学地理学科東洋史学専攻)
	担当分野	歴史(近現代)
所 属 学 会	歴史科学協議会、札幌郷土を掘る会	
研 究 課 題	・北海道鯨漁業の関わりから、漁場資本の銀行、北陸・東北からの出漁・漁夫出稼ぎについて ・北海道の軍事・戦争の関わりから、青少年「訓練」、「満州開拓」、朝鮮人「労務動員」について ・日本の博物館における明治以降の戦争関係史展示の現状と国際関係認識について	
近年の主な業績	2013;『日中両国から見た「満洲開拓」 体験・記憶・証言』御茶の水書房(共編、平成 18～21 年度科研費・基盤研究(B)海外・研究成果)	

生活文化研究グループ

池田 貴夫 Takao IKEDA	職 名	学芸部道民サービスグループ兼生活文化研究グループ学芸主幹
	学 位	博士(学術)、2007 年(名古屋大学)
	担当分野	民俗
所 属 学 会	北海道・東北史研究会、日本民具学会、日本生活学会、美学芸術学会、日本民俗学会、日本文化人類学会	
研 究 課 題	・現代社会におけるモノの処分と霊魂感—博物館へのモノの寄附という行為の分析から— ・糞突き棒(仮称)の研究 ・北海道の季節行事に関する研究	
近年の主な業績	2018;「来館者調査からみる北海道博物館の総合展示室およびはっけん広場の現状と課題」『北海道博物館研究紀要』第3号(共著) 2017;「道具・衣装」公開状況総論「福島町松前神楽保存会」『国記録選択無形民俗文化財調査報告書 松前神楽』北海道教育委員会 2017;「日本領期の樺太における温泉開発と温泉をめぐる人びとの精神誌」白木沢旭児(編著)『北東アジアにおける帝国と地域社会』北海道大学出版会 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—」『北海道博物館研究紀要』第1号(筆頭) 2013;『なにこれ!? 北海道学』北海道新聞社 2013;「災害と民具研究—北海道南西沖地震後の奥尻島の20年を振り返りつつ—」『民具研究』第147号	

山 際 秀 紀 Hideki YAMAGIWA	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼生活文化研究グループ学芸主査
	学 位	修士、1994 年(大谷大学大学院文学研究科)
	担当分野	産業史(農業)
所 属 学 会	北海道産業考古学会	
研 究 課 題	・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査	
近年の主な業績	2016;「世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著)	

会 田 理 人 Masato AIDA	職 名	総務部企画グループ兼生活文化研究グループ学芸主査
	学 位	修士、2002 年(北海道大学大学院文学研究科)
	担当分野	産業史(漁業)
所 属 学 会	日本民具学会、北海道大学東洋史談話会、北海道産業考古学会	
研 究 課 題	・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査 ・北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究 ・日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究	
近年の主な業績	2018;「全道樺太実業野球大会」『北海道博物館研究紀要』第3号 2016;『「ニシン釜」はどこで作られていた?』北海道博物館協会学芸職員部会(編)『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》 北海道で残したいモノ伝えたいコト』寿郎社 2016;『樺太日日新聞』掲載コンプ関係記事—目録と紹介(1923-29 年)—『北海道博物館研究紀要』第1号 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著) 2015;「日本領南樺太の実業団野球大会」『北方地域のひとと環境の関係史研究報告』北海道開拓記念館 2014;『小樽新聞』掲載明治三陸地震・津波関連記事: 目録と紹介『北海道開拓記念館研究紀要』第42号 2013;「大正期利尻島のアワビ移植事業」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号	

青柳 かつら Katsura AOYAGI

職 名	学芸部社会貢献グループ兼生活文化研究グループ学芸主査
学 位	博士(環境学)、2011 年(筑波大学大学院生命環境科学研究科)
担当分野	産業史(林業)

所 属 学 会	日本森林学会、林業経済学会
研 究 課 題	・高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発 ・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査 ・寒冷地の自然と適応に関する研究
近年の主な業績	2018;『JSPS 科研費 15K01153 報告書 2. 士別市朝日町の歴史と文化: 回想法サロンと異世代交流の記録』 2018;『JSPS 科研費 15K01153 報告書 1. 博物館を拠点とした高齢者と協働する地域学習プログラム集』 2017;『ぐるっと東旭川たんけんマップ』(JSPS 科研費中間報告) 2017;「高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発(Ⅱ) — 独居後期高齢者向け回想法サロンの効果と課題 —」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり — 総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告 —」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (共著) 2016;「高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発 — 2015 年北海道と 2003 年全国の博物館園対象高齢者プログラムアンケート調査結果の比較から —」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 2015;「住民協働による森林利用技術の映像記録と活用: 士別市朝日町の事例」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』北海道開拓記念館

尾 曲 香 織 Kaori OMAGARI

職 名	学芸部博物館基盤グループ兼生活文化研究グループ学芸員
学 位	修士、2013 年(筑波大学大学院人文社会科学研究科)
担当分野	民俗

所 属 学 会	日本民俗学会、現代民俗学会、日本民具学会、歴史人類学会、女性民俗学研究会
研 究 課 題	・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査
近年の主な業績	2018;「新十津川における女性のくらしー結婚や出産に関わる習俗の変化についての一考察ー」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 2018;「滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (共著) 2018;「出産・生育」「婚姻」「食と儀礼」ほか『土浦市民俗調査報告書 第 2 集 藤沢・斗利出の民俗ー桜川左岸の低地・台地の環境と暮らしー』土浦市立博物館 2017;「兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (共著) 2016;「新生活運動とある女性の葛藤ー生活の合理化と地域から求められる役割ー」『筑波大学地域研究』第 37 号 2015;「人生儀礼」「空間と住まい」ほか『常陸大津の御船祭 総合調査報告書』北茨城市教育委員会 2015;「地域における共有物とその利用ー共有膳碗を中心としてー」ほか『牡鹿半島の民俗と地域社会ーこれまでの記憶とこれからの可能性についてー』筑波大学民俗学研究室

博物館研究グループ

堀 繁 久 Shigehisa HORI	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼博物館研究グループ学芸主幹
	学 位	学士、1985 年(琉球大学理学部生物学科)
	担 当 分 野	博物館学、生物
所 属 学 会	日本昆虫学会、日本甲虫学会、日本蛾類学会	
研 究 課 題	・日本および北海道周辺の昆虫相の解明とその変遷 ・市民と協働による野幌森林公園の生物インベントリーの解明	
近年の主な業績	2017;増補改訂版『探そう！ほっかいどうの虫』北海道新聞社 2017;「北海道におけるシラキトビナナフシとヤスマツトビナナフシの分布について」『北海道博物館研究紀要』第 2 号（筆頭） 2016;「野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとトノサマガエルの侵入および分布拡大経過について」『北海道博物館研究紀要』第 1 号（筆頭） 2016;“A New Species of the Genus <i>Asessinia</i> (Coleoptera, Oedemeridae) from Central Honshu and Southwestern Hokkaido” <i>Elytra N.S.</i> , 06(1) 日本甲虫学会（共著） 2016;「【グラビアシリーズ:昆虫の横顔】北海道の昆虫」『昆蟲 N.S.』第 19 巻 3 号 日本昆虫学会 2015;『昆虫図鑑 北海道の蝶と蛾』北海道新聞社（共著） 2015;「北海道博物館の新しい自然展示 生き物たちの北海道」『博物館研究』平成 27 年 10 月号	

杉 山 智 昭 Tomoaki SUGIYAMA	職 名	学芸部道民サービスグループ兼博物館研究グループ学芸主査
	学 位	修士、1997 年(弘前大学大学院理学研究科生物学専攻)
	担 当 分 野	文化財保存科学
所 属 学 会	文化財保存修復学会、日本文化財科学会、The International Biodeterioration Biodegradation Society	
研 究 課 題	・文化財の劣化に関する研究 ・文化財の保存環境に関する研究 ・文化財の科学分析	
近年の主な業績	2018;「津波による水損文化財の緊急避難措置としての低酸素濃度処理法の評価(Ⅱ)ー紙製文化財に対する好気性糸状菌の活動抑制効果についてー」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 2016;「津波による水損文化財の緊急避難措置としての低酸素濃度処理法の評価 ー糸状菌の活動抑制に対する効果的運用についてー」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 2016;「アイヌ民族文化財の X 線 CT による現況調査(Ⅱ)」『北海道博物館研究紀要』第 1 号（共著） 2016;「寒冷地における歴史的木造建築物の保存にむけて ー旧開拓使工業局庁舎を例にー」『平成 27 年度東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター紀要』 2015;「アイヌ民族文化財の X 線 CT による現況調査(Ⅰ)」『北海道開拓記念館紀要』第 43 号 2015;「ボストン美術館におけるコレクションの保存修復活動について」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』北海道開拓記念館	

櫻 井 万 里 子 Mariko SAKURAI	職 名	学芸部社会貢献グループ兼博物館研究グループ主査
	学 位	学士、1997 年(藤女子大学文学部国文学科)
	担 当 分 野	図書館情報学
所 属 学 会	日本図書館協会、専門図書館協議会	
研 究 課 題	・博物館の研究成果のデータベース化及び情報発信に関する研究	

栗原 憲一 Ken'ichi KURIHARA	職 名	学芸部社会貢献グループ兼博物館研究グループ学芸員
	学 位	博士(理学)、2006 年(早稲田大学)
	担当分野	博物館学、地学
所 属 学 会	日本古生物学会、日本地球惑星科学連合、日本展示学会、全日本博物館学会、日本サイエンスコミュニケーション協会	
研 究 課 題	・北海道産白亜紀アンモナイト類の産地データベースの作成と博物館資料の学術的活用に関する研究 ・北海道ののぞましい博物館のあり方に関する市民意識調査に関する研究 ・博物館教育プログラムと教材キット開発に関する研究 ・博物館と地域資源活用型プログラム(ジオパーク)との関わりに関する研究	
近年の主な業績	2018;「来館者調査からみる北海道博物館の総合展示室およびはっけん広場の現状と課題」『北海道博物館研究紀要』第3号(筆頭) 2017;“The Oldest Asian hesperornithiform from the Upper Cretaceous, and the phylogenetic reassessment of Hesperornithiformes” <i>Journal of Systematic Palaeontology</i> Taylor & Francis National History Museum (共著) 2017;“A new species of Eubostrychoceras (Ammonoidea, Nostoceratidae) from the lower Campanian in the northwestern Pacific realm” <i>Paleontological Research</i>, 21(3) Paleontological Society of Japan (共著) 2017;「模型製作で科学コミュニケーションー北広島マンモス大復活プロジェクトー」『日本サイエンスコミュニケーション協会誌』第7巻1号 日本サイエンスコミュニケーション協会(筆頭) 2017;「2016 年度博物館実習において実施した来場者調査について」『北海道博物館研究紀要』第2号(筆頭) 2016;「ジオパークにおける博物館活動の役割ー三笠ジオパークの三笠市立博物館の事例とともにー」『地学雑誌』第125巻6号 2016;“The Last Surviving Ammonoid at the end of the Cretaceous in the North Pacific Region” <i>Paleontological Research</i>, 20(2) (筆頭)	

小林 孝二 Koji KOBAYASHI	職 名	学芸部道民サービスグループ兼博物館研究グループ学芸員 (2018 年 3 月退職)
	学 位	博士(工学)、2008 年(北海道工業大学)
	担当分野	建築
所 属 学 会	日本建築学会、日本民俗建築学会	
研 究 課 題	・北海道におけるアイヌ文化成立以前の建築活動に関する基礎的研究 ・積雪寒冷地における歴史的建造物の保存・活用に関する研究 ・北海道建築史の総合化に関する研究	
近年の主な業績	2016;「世代間対話の場としての博物館づくりー総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告ー」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著) 2015;「先史住居の建築工程・工作方法に関する考察ー馬場脩「樺太アイヌ穴居家屋「トイチセ」について」に記載された堅穴居住経験者からの聞き取り内容の可視化と復元事例の検討ー」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』北海道開拓記念館 2013;「北海道建築協会機関誌『北海道建築』に見る寒地住宅研究の動向」『北方地域の人と環境の関係史 2011-12 年度調査報告』北海道開拓記念館	

村 上 孝 一	Kouichi MURAKAMI	職 名	総務部企画グループ兼博物館研究グループ学芸員
		学 位	学士、1978 年(北海道工業大学建築工学科)
		担 当 分 野	建築
所 属 学 会	日本建築学会、日本民俗建築学会		
研 究 課 題	・野外博物館北海道開拓の村復元建造物の保存・修復に関する研究 ・北海道の住生活文化に関する研究		
近年の主な業績	2018;「滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 3 号（共著） 2017;「兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 2 号（共著） 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり ―総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告―」『北海道博物館研究紀要』第 1 号（共著） 2016;「加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 1 号（共著） 2015;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(V)」『北海道開拓記念館研究紀要』第 43 号（共著） 2014;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(IV)」『北海道開拓記念館研究紀要』第 42 号（共著） 2013;「厚沢部町から収集した神楽関係資料」『北海道開拓記念館研究紀要』第 41 号（共著）		

アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ

小 川 正 人	Masahito OGAWA	職 名	学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長兼研究部長
		学 位	博士(教育学)、1995年(北海道大学)
		担 当 分 野	アイヌ史(教育史)
所 属 学 会	教育史学会、北海道・東北史研究会、日本教育学会		
研 究 課 題	・近代北海道のアイヌ教育史に関する調査研究 ・近代アイヌ史研究に関する基礎的資料の収集・整理と提供 ・アイヌ史に関する研究情報の集積と提供		
近年の主な業績	2018;「釧路市・清野写真館旧蔵写真ー2017年度新収蔵資料の紹介ー」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号(筆頭) 2017;「鍋沢元蔵書誌」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号(筆頭) 2016;「アイヌ文献目録 2000～2009(その2)〈雑誌・逐次刊行物編〉」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第1号(筆頭) 2015;「函館と近代アイヌ教育史ー谷地頭にあったアイヌ学校の歴史ー」『市立函館博物館研究紀要』第25号 2014;「『第二尋常小学校』の意味:近代北海道のアイヌ教育史における『別学』原則の実態」『教育史・比較教育論考』第21号 2013;「『対雁学校』の歴史:北海道に強制移住させられた樺太アイヌの教育史」『教育学研究』第80巻第3号		

甲 地 利 恵	Rie KÔCHI	職 名	アイヌ文化研究グループ兼学芸部社会貢献グループ研究主幹
		学 位	修士(教育学)、1988年(東京学芸大学大学院教育学研究科)
		担 当 分 野	アイヌ文化(音楽)
所 属 学 会	東洋音楽学会、日本民俗音楽学会、北海道民族学会		
研 究 課 題	・北海道内の各地域に伝承されるアイヌ音楽についての調査研究 ・アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究		
近年の主な業績	2018;「アイヌ音楽の音声資料ー公刊されたアナログレコード盤ー」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号 2017;「アイヌ音楽における奇数拍節及び『音頭一同』形式との関係について」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号 2015;「アイヌ音楽における歌唱スタイルの多様性の検討に向けた試みー平取地方の『cupka wa kamuy ran』録音資料の比較をとおしてー」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第21号 2014;“The polyphonic elements in the monophonic singing styles of traditional Ainu music” R.Tsurtsmia・J.Jordania 編 <i>The Sixth International Symposium on Traditional Polyphony (24-28 September 2012 Tbilisi, Georgia) Proceedings</i> International Research Center for Traditional Polyphony of Tbilisi Vano Sarajishvili Tbilisi State Conservatoire, Georgia		

大 谷 洋 一 Yoh'ichi OOTANI	職 名	学芸部社会貢献グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
	学 位	
	担 当 分 野	アイヌ文学
所 属 学 会	日本口承文芸学会、北海道民族学会	
研 究 課 題	・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究 ・アイヌ語原文による口承文芸資料の情報収集と調査研究	
近年の主な業績	2018;「アイヌ口承文芸『散文説話』—人間の女に惚れたプリを殺した男—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号 2017;「アイヌ口承文芸で語られる河童について」『口承文芸研究』第40号 日本口承文芸学会 2017;「アイヌ口承文芸『散文説話』—山の神と沖の神の子を身ごもった女の物語—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号 2016;「アイヌ口承文芸『散文説話』—河童に助けられた男の物語—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第1号 2015;「カムイの散文説話—白キツネ兄弟の物語—」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第21号 2014;「カムイからの意思伝達のあり方について—北海道アイヌの散文説話を中心に—」『口承文芸研究』第37号 日本口承文芸学会	

田 村 雅 史 Masashi TAMURA	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
	学 位	博士(文学)、2011年(千葉大学大学院社会文化科学研究科)
	担 当 分 野	アイヌ語
所 属 学 会	日本言語学会	
研 究 課 題	・北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査	
近年の主な業績	2017;「2016年度博物館実習において実施した来場者調査について」『北海道博物館研究紀要』第2号 (共著) 2016;「北海道博物館における言語展示への試み(報告)—総合展示第2テーマに設置した『アイヌ語ブロック』を中心に—」『北海道博物館研究紀要』第1号 (筆頭) 2014;「アイヌ語白糠方言における tek の用法」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第20号	

遠 藤 志 保 Shiho ENDO	職 名	総務部企画グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
	学 位	修士、2007年(千葉大学大学院文学研究科)
	担 当 分 野	アイヌ文学
所 属 学 会	日本口承文芸学会	
研 究 課 題	・鍋沢元蔵氏筆録資料をテキストとした、アイヌ英雄叙事詩に関する研究	
近年の主な業績	2018;「アイヌ英雄叙事詩におけるハヨク ペの語られ方」『口承文芸研究』第41号 日本口承文芸学会 2017;「北海道」『47都道府県・妖怪伝承百科』丸善出版 2017;「アイヌ英雄叙事詩における登場人物の感情表現」『ひろがる北方研究の地平線 中川裕先生還暦記念論文集』サッポロ堂書店 2016;『国立民族学博物館調査報告 No.134 国立民族学博物館所蔵 鍋沢元蔵ノートの研究』(共編) 2015;「アイヌ韻文文学における接続句」アンナ・ブガエワ、長崎郁編『アイヌ語研究の諸問題』北海道出版企画センター 2014;「アイヌ英雄叙事詩における敵対者の復活—なぜ『童子たち』は一度しか現れないのか—」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』第16号 千葉大学ユーラシア言語文化論講座 2014;「アイヌ英雄叙事詩における結末—同一ストーリーにおける揺れを中心に—」『口承文芸研究』第37号 日本口承文芸学会	

大 坂 拓 Taku OSAKA	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
	学 位	修士、2008 年(明治大学)
	担当分野	アイヌ文化(生活技術)
所 属 学 会	日本考古学協会、考古学研究会、北海道考古学会	
研 究 課 題	・アイヌの物質文化に関する基礎的研究 ・物質文化から見た噴火湾アイヌの近現代史 ・北海道博物館所蔵資料に関する基礎情報の集積	
近年の主な業績	2018;「アイヌ民族の荷縄―地域差と年代差、及び用途による形態差に関する基礎的検討―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号 2018;「北海道アイヌの『死者用靴』―日高東部地域の東方系出自集団に固有の死装束とその周辺―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号 2018;「北海道新ひだか町静内収集の編袋―新ひだか町博物館所蔵資料の紹介―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号 2017;「アイヌ民族の刀帯 ―分類群の共時的分布と通時的変化―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 2 号 2017;「千島アイヌ製作のハマニンニク製容器 ―平成 28 年度新収蔵資料の紹介―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 2 号 2016;「アイヌの儀礼用冠について ―北海道大学植物園・博物館所蔵資料の検討―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 1 号 2016;「北海道乙部町伝世の木綿衣ほか ―平成 27 年度新収蔵資料の紹介―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 1 号	

出 利 葉 浩 司 Koji DERIHA	職 名	学芸部道民サービスグループ兼アイヌ文化研究グループ学芸員 (2017 年 3 月退職)
	学 位	学士、1978 年(北海道大学文学部日本史学科)
	担当分野	アイヌ文化(民具)
所 属 学 会	日本文化人類学会、北海道民族学会、American Anthropological Association	
研 究 課 題	・博物館民族資料の収集、収蔵、展示にかかわる調査研究 ・『いわゆるチェルカーン型の罌で、なにを獲ったのだろうか?』	
近年の主な業績	2016;「北海道博物館における言語展示への試み(報告) ―総合展示第 2 テーマに設置した『アイヌ語ブロック』を中心に―」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (共著) 2015;「アイヌ物質文化はどのような視点から研究されてきたのだろうか」『国立民族学博物館調査報告 第 132 集』 2015;「北米の博物館展示からみた自然史展示の方向性」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』 2014;“Trade and the Paradigm Shift in Research on Inu Hunting Practices” M. Hudson et.al eds. <i>Beyond Ainu Studies</i> Univ of Hawaii Press 2014;「スター、パチェラーそしてセントルイスに行ったアイヌの人びとをめぐる北海道のできごと」『北海道開拓記念館研究紀要』第 42 号	